

43-200



昭和42年度

地力保全基本調査成績

〔北見地域 留辺蘂町〕

北海道立中央農業試験場

③

序

現状における土地生産力は諸種の土壌的阻害要因によつて充分にその地力を発揚できない場合が少くないのみならず、一方では剝脱要因もあつてその地力は消耗低下しつゝある。従つてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成績書は昭和42年度に行なつた9地域12市町村をとりまとめたもので、こゝにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和43年3月

北海道立中央農業試験場

三 島 京 治

調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100ha以上の集団になつている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取まとめに当つては、夫々下記の資料に基づいた。

1. 土壌断面調査および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号（昭和36年9月、農林省振興局農産課）によつた。
2. 土壌統および区の設定並びに土壌生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号（昭和40年3月、農林省農政局農産課）及び水田土壌統設定第1次案（昭和38年12月、農技研化学部土壌第3課）による。

土壌統および土壌区の設定に当つては、北海道農業試験場農芸化学部土壌第1研究室の土性図を参照した。

化学部	部長	長谷部	俊雄
土壌改良科	科長	後藤	計二
”	第1係長	小林	莊司
”	研究職員	高尾	欽彌
”	”	菊地	晃二
”	”	水元	秀彰
”	”	伊東	輝行
”	”	坂本	宣崇
”	”	小林	茂

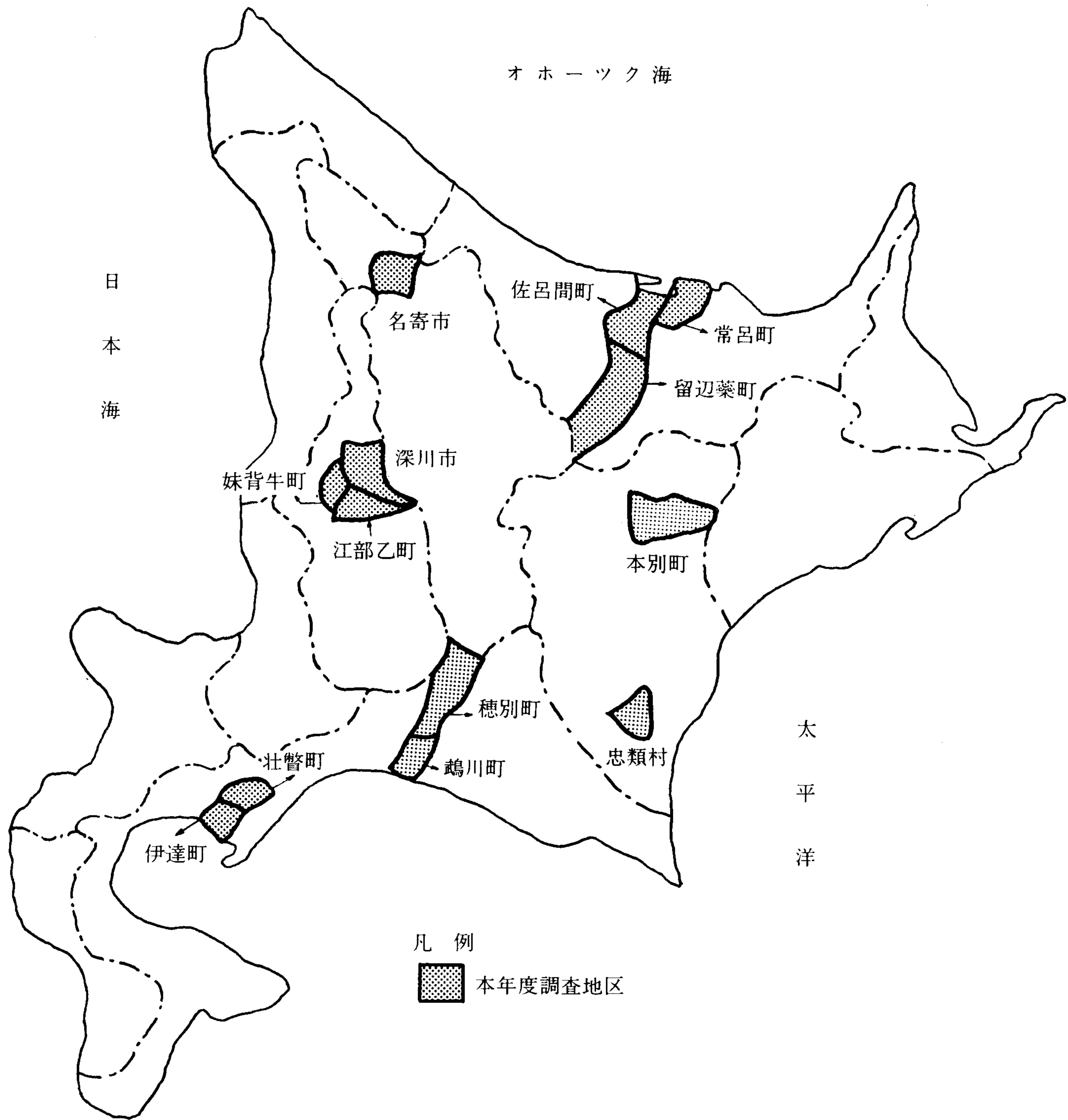
主に化学分析を担当した職員

研究職員	宮脇	忠
”	木村	清
”	松原	一実
”	上坂	晶司

1. 調査地域一覽

調査地域名	該当郡市町村名	農地面積 (調査対象面積) (ha)		既調査面積 (ha)		本年度調査面積 (ha)	
		水田	畑	水田	畑	水田	畑
十勝東部	中川郡本別町	108	9,972	—	270	108	9,702
十勝中部	広尾郡忠類町	—	3,688	—	—	—	3,688
佐呂間湖畔	常呂郡常呂町	55	4,335	—	1,223	55	3,112
	常呂郡佐呂間町	808	5,756	808	2,147	—	3,609
北見	常呂郡留辺蘂町	467	3,605	—	—	467	3,605
芦別	深川町	7,377	2,530	2,352	—	5,025	2,530
	空知郡江部乙町	2,380	1,091	175	240	1,590	851
上川北部	名寄市	1,590	4,163	—	2,465	866	1,698
洞爺湖畔	有珠郡伊達町	866	4,873	—	—	260	4,873
	有珠郡壮瞥町	260	1,655	—	—	417	1,655
日高沿岸	勇払郡鶴川町	2,557	768	2,140	—	925	768
日高北部内陸	勇払郡穂別町	1,127	1,007	202	—	—	1,007
空知北部	雨竜郡妹背牛町	3,249	215	—	—	—	—
合計		20,844	43,658	5,677	6,345	11,918	37,098

調査地区位置図



北見地域 留辺蘂町

I 地区の概要

1) 位置及び調査面積

- (1) 位 面 網走支庁管内 常呂郡留辺蘂町
- (2) 調査面積

郡市町村名	農地総面積 (ha)				調査対象面積 (ha)			
	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計
常呂郡留辺蘂町	467	3,605	—	4,072	467	3,605	—	4,072

過年度調査面積 (ha)				本年度調査面積 (ha)				次年度以降調査面積 (ha)			
水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計
0	0	0	0	467	3,605	—	4,072	0	0	0	0

2) 気 候

本町は北海道の東部に存在し、オホーツク海沿岸内陸地域に属する。この地帯もオホーツク沿岸地域より若干程度は低いがおホーツク海気団の影響は免れ得ない。このためしばしば冷湿害を受ける。

特にこの地帯の水稻は低温豪照による所謂冷害の被害程度が大きい。また豆類もこのような年には甚しい低収となる。

気候は一般に冷涼で、降雨量が少ない。春季の強風乾燥期には一部風蝕を受ける地点がある。

網走測候所の観測成績は次表の如くである。

項目		月別									
		4	5	6	7	8	9	10	11		
気 温 (°C)	平 均	3.6	8.7	12.4	17.0	19.5	15.8	10.1	3.1		
	最高平均	8.2	13.5	16.7	20.9	23.5	20.1	14.8	6.9		
	最低平均	-0.2	4.6	8.8	13.8	16.3	12.4	6.3	-0.2		
降水量(mm)	平 均	46.8	70.5	64.6	89.3	98.8	120.6	81.4	67.4		
湿 度 (%)		73	77	84	88	87	83	77	72		
風 速 (m/s)		4.6	4.3	3.1	2.7	2.9	3.7	4.1	4.6		
日照時間 (時)		196.7	191.1	198.6	191.7	199.7	198.6	179.2	133.6		

晩霜 5月15日, 初霜 10月17日

留辺薬町の簡易観測成績は次のようである。

月別気象状況

昭和38年1月～12日

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
最高気温極 °C		-4.2	-3.8	11.9	20.9	29.3	31.6	33.0	28.4	24.4	20.0	17.8	11.4
最低気温極 °C		-25.9	-23.2	-21.5	-12.2	-4.6	-1.8	8.1	10.4	1.6	-4.6	-11.8	-19.7
気温平均		-9.7	-7.1	-1.7	5.5	14.3	16.6	20.5	19.5	15.3	9.3	0.9	-2.9
最多風向		北西	北西	北西	南東	南東	南東	南東	東	東	南東	北東	北西
風力		2	3	3	4	3	3	2	2	2	2	3	2
降水量 (mm)		146	73	75	19	48	67	70	157	89	71	27	33

3) 土地条件

(1) 地形

本町の中央部を大雪山系に源を発する無加川が略々東西に流れ、下流の北見市において常呂川と合する。無加川及びその支流の流域には低平な河成積地が分布する。その両岸は切立つた急峻な山岳地帯になつているが、温根湯、留辺薬附近は低平地と山地の間に標高250～400mの波状台地が形成されている。

本町の北部標高317mの丘陵地を越えたところに佐呂間別川の上流が南北に流れ、この両岸に小規模な低平地が流れに沿つて分布する。その西側には標高140～220mの台地が形成されて更に西側の山地に連なり、また東側は概ね急傾斜を呈する山地になつている。

(2) 地質

本調査地区は大雪山系の裾部に当り四囲を山地に囲まれている。本町西部奥地は大雪山系に連なるため安山岩、流紋岩、凝灰岩等の火成岩が主体を占め、南部も火成岩が多く分布するが北西部は中生層第三紀層が一部介在する。このため河川流域の低平地はこれらの地質を反映して火成岩の風化堆積物を母材とする河成沖積土が多くかつ上流のため石礫の混入が多く、礫質地が多く分布するのが特徴である。

温根湯、留辺薬附近において無加川流域の両側に分布する波状性台地は凝灰岩、流紋岩等の火成岩や第三紀、中生層砂岩の風化物を母材とする洪積堆積物から形成されているが、堅密層浅く埋化学的に劣悪な土壌が多く分布する。また一部は大雪山系から噴出されたと思われる軽石粒を主材とした火山噴出物が堆積している。これら台地や低平地と山地との接触部には小規模な扇状地が所々に分布し、傾斜地には安山岩、流紋岩等を母岩とする崩積土が分布する。

一方北部の佐呂間町と隣接する地帯は周囲の山地が主として中生層の砂岩、頁岩からなつているためこれらの風化物を主母材とした河成沖積、洪積台地が形成されている。洪積台地は堅密層浅く埋化学的性状が劣悪な土壌となつている。傾斜地には中生層砂岩を母岩とする崩積土が分布する。

尚、全般的に薄層の火山灰が被覆しているが、耕地においては識別し難い。

(3) 侵蝕状況

山地に連なる傾斜地は水蝕が多く発生し、波状性台地も傾斜の強い斜面はかなりの水蝕が見られる。特に佐呂間町に隣接する瑞穂の台地や傾斜地は水蝕が多い。

(4) 交通状況

無加川流域の中央部を無加川に沿つて一般国道が北見市と層雲峡に向つて走つており、これより東北に号線が発達している。また留辺薬市街より佐呂間市街に至る道道及び生田原市街に通ずる道が通じ

交通は比較的よい。

しかし山地に連なる傾斜地や波状性台地の大部分は道路網の発達不完全で、かつ整備が不良であり、機械化の推進に伴い末端農道の整備が必要であろう。

4) 土地利用及び営農状況

a) 経営面積(1戸当平均ha)

総面積	田	普通畑	樹園地	その他
5.3	0.5	4.1	—	0.7

b) 作付面積(1戸当平均ha)

作物	水稲	麦類	馬鈴薯	ビート	豆類	牧草及び飼料作物	ハツカ	その他
面積	0.5	0.5	0.4	0.6	1.3	0.8	0.3	0.2

c) 家畜の種類及び頭数

	馬	乳牛	豚	綿羊	鶏
飼養戸数	661	211	180	227	487
飼養頭数	897	924	450	347	9544
1戸当平均飼養頭数	1.3	4.4	2.5	1.5	19

d) 労働の関係(1戸当人数)

家族人数	労力換算	季節雇	臨時雇
6.2	2.6	—	14

本町の農業の中核は無加川流域の沖積地帯になつていて、水稲、豆類、ビート、ハツカ等が作付けられているが、水稲は稲作限界地帯で大雪山系に近い山間地のため気象条件悪く、加えてオホーツク気団の影響によつてしばしば低温年がおとずれ、この年には障害型成は生育遅延により大きな減収を招いて冷害凶作をうける。従つて障害型、生育遅延型の技術的克服が重要事項となるが、現在の技術でいかに安全確収を得るかについて更に努力することが肝要であろう。

一方畑作も気象的影響をかなりうけるが、加うるに礫が多い土壌なので、比較的収量が低い傾向を有するので、地力の増進と経営の安定確立を期するため有畜化を図りつつあるが、面積狭少でありまた近隣に農地を拡大すべき土地が皆無に等しいのが大きな隘路になつている。

また波状性台地や傾斜地では有畜経営が行われているが立地条件があまりよくないこと、地味瘠薄で低地より気象条件が劣ることと酪農経営にばく大な資投下を必要しかつ投下資本の回転効率が低いこと等から貧弱な農家経済を以て一朝にして安定規模確立は期し難く、今後更に多くの経済的、精神的助成と指導の必要性が通感される。

2. 土壤類型区分及び説明

1) 土壤統一覧及び土壤区一覧

(1) 土壤統一覧

(水 田)

土壤統名	色層序	腐植層序	礫,砂礫層を混在する砂層	酸化沈積物	土 性		泥炭	黒泥	グライ	母材 堆積様式
					表 土	次 層				
瑞穂中央	YR/YR	表層腐植層なし	あり	あり	強粘質	粘 質	-	-	-	非固結水成岩水積(河成)
岩佐中央	" / "	"	"	"	"	強粘質	-	-	-	" (")
平里南	Y/Y	"	"	"	"	粘 質	-	-	-	" (")
松 山	" / "	表層腐植層	"	"	"	強粘質	-	-	-	" (")
栄	" / GY	"	なし	"	"	"	-	-	60cm以下	" (")

(畑)

土壤統名	色層序	腐植層序	礫・砂礫層を混在する砂層	酸化沈積物	土 性		母材・堆積様式
					表 土	次 層	
厚 和	YR/YR	表層腐植層なし	あり	なし	粘 質	壤 質	非固結火成岩風積
温 根 湯	" / "	"	なし	"	"	粘 質	"
富 岡	" / "	表層腐植層	"	あり	"	強粘質	非固結水成岩洪積
温 根 湯 北	" / "	表層腐植層なし	"	"	"	粘 質	"
川 北	" / "	"	"	"	強粘質	強粘質	"
花 園 北	" / "	表層腐植層	"	"	粘 質	粘 質	"
昭 栄 中 央	" / "	表層腐植層なし	あり	なし	強粘質	"	非固結水成岩水積(河成)
昭 栄 北	" / "	"	"	"	粘 質	壤 質	" (")
厚 和 南	" / "	表層多腐植層	"	あり	"	"	" (")
松 山 西	" / "	表層腐植層なし	なし	"	"	"	" (")
金 華	" / "	"	あり	なし	強粘質	粘 質	" (")

土 壤 統 名	色 層 序	腐 植 層 序	礫・砂礫層 礫を混在 する砂層	酸 化 沈 積 物	土 性		母 材 ・ 堆 積 様 式
					表 土	次 層	
厚 和 中 央	Y _R /Y _R	表層腐植層 なし	あり	なし	粘 質	粘 質	非固結水成岩 水積(河成)
厚 和 北	〃/〃	〃	〃	〃	壤 質	壤 質	〃 (〃)
端 野 東	〃/〃	〃	〃	〃	砂 質	砂 質	〃 (〃)
シヨマツプ沢	〃/〃	表層腐植層	〃	〃	粘 質	壤 質	〃 (〃)
瑞 穂 南	Y _R /Y _R	表層腐植層 なし	〃	〃	強粘質	強粘質	〃 (〃)
佐 呂 間 中 央	〃/〃	〃	なし	〃	〃	粘 質	〃 (〃)
富 岡 西	〃/〃	〃	あり	〃	粘 質	〃	〃 (〃)
豊 金	〃/〃	表層腐植層	〃	〃	壤 質	壤 質	〃 (〃)
大 富	〃/〃	表層腐植層 なし	〃	〃	〃	粘 質	〃 (〃)
瑞 穂	〃/〃	〃	〃	〃	粘 質	〃	〃 (〃)
大 富 南	〃/〃	表層腐植層	なし	〃	〃	壤 質	固結火成岩 水積(扇状堆土)
昭 栄 南	〃/〃	〃	〃	〃	〃	粘 質	〃 (〃)
留 辺 薬 北	〃/〃	表層腐植層 なし	あり	〃	壤 質	〃	変 成 岩 〃 (〃)
金 華 西	〃/〃	表層腐植層	〃	〃	粘 質	〃	固結火成岩 〃 (〃)
大 和 北	〃/〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃 (〃)
瑞 穂 東	〃/〃	表層腐植層 なし	〃	〃	〃	〃	固結水成岩 〃 (〃)

(2) 土 壤 区 一 覧

(水 田)

土 壤 区 名	簡略分級式	面 積 (ha)	備 考
瑞穂中央 - 瑞穂中央	II dp θ	66	
若佐中央 - 岩佐中央	II tp θ fn	19	
平里南 - 平里南	II θ fn	253	
松 山 - 松 山	II p θ	95	
栄 - 栄	II pfn	34	

(畑)

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式	畑 面 積 (ha)	備 考
厚 和 - 厚 和	Itnse	41	調査面積 80
温 根 湯 - 温 根 湯	Itse	225	438
富 岡 - 富 岡	IdItwfnise	157	306
温 根 湯 北 - 温 根 湯 北	IdItwfnise	516	1,002
川 北 - 川 北	IdnItgpwfise	241	470
花 園 北 - 花 園 北	IdItpwfnis	172	335
昭 栄 中 央 - 昭 栄 中 央	Itdfn	458	942
昭 栄 北 - 昭 栄 北	Itdn	352	684
厚 和 南 - 厚 和 南	IdwItfni	68	132
松 山 西 - 松 山 西	IwItdfn	21	40
金 華 - 金 華	IdItpni	147	286
厚 和 中 央 - 厚 和 中 央	Itdn	113	220
厚 和 北 - 厚 和 北	IdItgfnis	115	223
端 野 東 - 端 野 東	Itdf	44	86
シヨマツ沢 - シヨマツ沢	IdIlg(w)ni	140	272
瑞 穂 南 - 瑞 穂 南	Itdpw	12	23
佐 呂 間 中 央 - 佐 呂 間 中 央	Itpn	227	441
富 岡 西 - 富 岡 西	IsIt dne	6	11
豊 金 - 豊 金	IdgsIt pfnie	12	23
大 富 - 大 富	IsIt dgpfne	94	183
瑞 穂 - 瑞 穂	ItsIdne	165	321
大 富 南 - 大 富 南	IsIt dne	28	54
昭 栄 南 - 昭 栄 南	Itgpse	169	329
留 辺 薬 北 - 留 辺 薬 北	IdItgpnise	9	17
金 華 西 - 金 華 西	IdIlgpnise	9	17
大 和 北 - 大 和 北	IgIt dpse	52	100
瑞 穂 東 - 瑞 穂 東	It dIise	12	23

2) 土壤統別説明

水 田

瑞 穂 中 央 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ 20cm内外で腐植含量 4~5%、土性はL i Cが主である。未風化、半風化小中円礫を

を含む～含む、色は10 YR で彩度3、明度3のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。糸根状の酸化沈積物を含む、ち密度15～18で疎、PH(H₂O) 7.0～6.0、下層との境界は平坦明瞭。

オ2層は厚さ10～20 cmで腐植含量2%以下、土性はCLが主である。色は10 YR で彩度6、明度5のものが多い。均質連結状で細小孔あり、雲状、糸根状酸化沈積物を含む。ち密度20前後で中、PH(H₂O) 6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

オ3層は地表下30～40 cmで、未風化細小中半角、円礫からなる礫層。

代表的断面形態

所在地 常呂郡留辺蘂町瑞穂 試坑No 若21

第1層	0～22 cm	腐植を含む暗褐(10YR 3/3)のLiC、未風化、半風化細小円礫を含む、発達弱度の粒状構造、糸根状酸化沈積物を含む、ち密度16で疎、PH(H ₂ O) 7.2、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
オ2層	22～35	腐植あり黄褐(10YR 5/6)のCL、均質連結状構造、細小孔あり、雲状、糸根状酸化沈積物を含む、ち密度20で中、PH(H ₂ O) 6.1、調査時の湿り湿、境界波状漸変
オ3層	35～	未風化、半風化細小中円礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分%	粒径組成%				土性	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
			組砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～22	4.4	6.5	21.3	44.3	27.9	LiC	2.42	0.27	9	4.1
2	22～35	3.5	27.0	35.3	20.2	17.5	CL	0.63	0.09	7	1.1

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度%	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	7.2	5.8	1.0	25.2	25.2	1.0	0.3	100	7.77	23.4
2	6.1	4.7	1.8	13.7	9.7	0.9	0.1	70.8	6.24	2.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては佐呂間中央統、栄統、瑞穂南統、温根湯北統等があるが、栄統とは礫層の出現位置及び色層序が異り、佐呂間中央統、瑞穂南統、温根湯北統は夫々畑土壌なので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地形 佐呂間別川上流域の低平地

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。

年平均気温 5.6 °C、年間降水量 800 mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、主として水稻が栽培されている。

E 農業上の留意事項

礫層が浅く透水良好なところは埴質土壌の客入が必要であろう。

稲作限界地帯に位置し気象的災害が多いから品種の選定、健苗育成、初期生育促進等について特段の注意が必要である。

F 分 布

常呂郡留辺蘂町字瑞穂の一部。

調査及び記載責任者 高尾欽彌 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
瑞穂中央 - 瑞穂中央	II d p l

② 土壌区別説明

瑞穂中央 - 瑞穂中央

示性分級式 (水田)

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕起の難易	表土の粘着性	表土の風乾の硬さ	湛水透水性	作土50cmの最高密度	還元性	易分解性有機物含量	遊離酸化鉄含量	グロウ化度	土壌の乾燥性	透水性	保湿性	自然肥力	自肥力	固肥力	土層の塩基状態	養分豊富	置換性石灰含量	有効態窒素	有効態リン	有効態珪素	微量酸素	酸度	障害性	物理的障害の有無	増冠水の危険度	地すべりの危険度							
t	d	g	p			l	r				w	f	n	i	a																					
II	I	II	I	II	3	2	2	II	2	2	I	2	2	1	---	---	I	1	2	1	I	1	2	2	1	2	---	1	1	I	1	1	I	1	1	
III	II	III	I	II	3	2	2	---	---	---	---	---	---	I	I	1	3	1	I	1	2	1	I	1	2	2	1	---	1	1	II	1	2	I	1	1
簡略分級式		II d p l																																		
III d II t p i																																				

A 土壌区の特徴

この土壌区は瑞穂中央統に属する。作土の厚さは20cm内外で深く、有効土層は30～40cmで中庸である。作土の土性は細粒質で粘着性強く耕起碎土はやや困難である。湛水透水性中庸で、還元化弱

弱く水稻の根系障害のおそれは少ない。

保肥力大、磷酸固定力中で土層の塩基状態は良好である。作土は有効態加里、苦土含量中庸で他の養分含量は比較的多い。下層は磷酸が少く、加里、苦土はやや少い。災害性はなく、特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて水稻が栽培されている。

C 地力保全上問題点

礫層浅く透水良好なところは埴質土壤の客入が必要であろう。施肥面では磷酸、加里に重点をおくことが望ましい。

D 分布

常呂郡留辺蘂町瑞穂の一部。

記載責任者 高尾欽彌 (北海道立中央農業試験場)
日付 昭和 43 年 3 月 31日

若 佐 中 央 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A~1 断面の特徴

オ1層は厚さ12cm内外で腐植含量4~5%、土性はLiCが主である。色は7.5yRで彩度2、明度3のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。糸根状酸化沈積物を含む、ち密度12~15で疎、PH(H₂O)5.5前後。下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ15~20cmで腐植含量2%以下、土性はLiCが主である。色は7.5yRで彩度5、明度5のものが多い。糸根状酸化沈積物を含み、均質連結状を呈す。細小孔含む、ち密度16前後で疎、PH(H₂O)5.1~5.5、下層との境界は波状漸変する。

オ3層は厚さ10~15cmで腐植含量2%以下、土性はSiCが主である。色は7.5yRで彩度6、明度6のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度であり、細小孔を含む、雲状の酸化沈積物を含む、ち密度16前後で疎、PH(H₂O)5.5前後、下層との境界は平坦明瞭である。

オ4層は厚10cm内外で腐植を欠き、土性はCが主である。未風化細小円礫に富む。色は7.5yRで彩度3、明度6のものが多い。板状構造を呈し、雲状の酸化沈積物に富む。ち密度22前後で中、下層との境界は波状漸変である。

オ5層は地表下50cm以下で円礫を主とするち密層。

代表的断面形態

所在地 常呂郡佐呂間町啓生 試坑NO 若26

オ1層	0~12cm	腐植を含む黒褐(7.5yR3/2)のLiC、発達弱度の細粒状構造、糸根状酸化沈積物を含む、ち密度12で疎、PH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
オ2層	12~30	腐植あり灰褐(7.5yR6/6)のLiC、均質連結状構造、糸根状酸化沈積物を含む、ち密度16で疎、PH(H ₂ O)5.1、調査時の湿り湿、境界波状漸変。
オ3層	30~43	腐植を欠く明燈褐(7.5yR6/6)のSiC、発達弱度の細塊状構造、雲状の酸化沈積物を含む、ち密度16で疎、PH(H ₂ O)5.0、調査時の湿り湿、境界波状明瞭。
オ4層	43~50	腐植を欠く灰燈色(7.5yR6/3)のC、未風化細小中円礫に富む、板状構造を呈し、雲状の酸化沈積物に富む、ち密度22で中、調査時の湿り湿、境界波状漸

	変。
才5層 50～	未風化円礫層からなる堅密なち密層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～12	2.6	7.0	20.9	37.7	34.4	LiC	2.40	0.24	10	4.1
2	12～30	2.1	3.6	11.8	43.4	41.2	LiC	0.96	0.10	10	1.7
3	30～43	0.7	2.2	8.7	51.0	38.1	SiC	-	-	-	-

層位	P H		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.5	4.3	7.0	21.8	9.8	2.2	0.3	45.0	1.030	7.4
2	5.1	4.1	25.8	16.8	5.0	1.9	0.2	29.8	1.020	tr
3	5.11	3.9	40.3	19.6	0.1	5.2	0.2	51.5	9.29	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては佐呂間中央統、瑞穂中央統等があるが、佐呂間中央統は畑土壌でかつ礫層の出現位置が異り、瑞穂中央統とも礫層の出現位置が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（中生層砂岩風化物）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形 佐呂間別川流域の低平地。

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわれて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6 °C、年間降水量 800mm 内外。

D 植生及び利用状況

大部分水稻が栽培されている。

E 農業上の留意事項

佐呂間別川流域の沖積土で、水田土壌として特別の問題点はないが、稲作限界地帯に位置するため気温の変動による気象的災害が多いから健苗育成、初期生育促進、品種の選定等が重要な事項となる。

F 分布 常呂郡留辺蘂町字瑞穂の一部。

調査及び記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式
若佐中央 - 若佐中央	II t p l fn

平 里 南 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ20 cm内外で腐植含量4~5%、土性はSCLが主である。色は5Yで彩度1、明度3のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度である。膜状、糸根状酸化沈積物を含む。ち密度15前後で疎、PH(H₂O) 5.5~5.8、下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ10~20 cmで腐植含量4%内外、土性はCLが主である。色は2.5Yで彩度2、明度6のものが多い。均質連結状構造で、膜状、糸根状酸化沈積物を含む。ち密度13~15で疎、PH(H₂O) 6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

オ3層は厚さ10~20 cmで腐植を欠き、土性はCLが主である。色は2.5Yで彩度2、明度6のものが多い。均質連結状構造で、雲状、膜状の酸化沈積物に富む。ち密度20前後で中、下層との境界は平坦明瞭である。

オ4層は地表下概ね50 cm以下で腐植を欠き、土性はSもしくは円礫層である。

代表的断面形態

所在地 常呂郡留辺蘂町平里 試坑NO 温20

オ1層	0~20 cm	腐植を含む黒(5Y 3/1)のSCL、発達弱度の細塊状構造、膜状、糸根状酸化沈積物を含む、ち密度15で疎、PH(H ₂ O) 5.7、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
オ2層	20~35	腐植を含む黄褐灰(2.5Y 7/2)のCL、均質連結状、細小孔あり、膜状、糸根状酸化沈積物を含む、ち密度13で疎、PH(H ₂ O) 6.0、調査時の湿り湿、境界波状明瞭。
オ3層	35~50	腐植を欠く黄褐灰(2.5 7/2)のCL、均質連結状、膜状、雲状の酸化沈積物に富む、ち密度20で中、グライ斑あり、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
オ4層	50~	黄灰(10Y 5/2)のSまたは未風化円礫層である。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~20	1.4	19.3	45.7	18.6	17.4	SCL	2.67	0.27	10	4.6
2	20~35	2.0	8.4	35.1	32.7	23.8	CL	2.28	0.24	9	4.0

層位	P H		置換酸 度 Y1	塩基置 換容量 m ⁺ /100g	置換性塩基 ^{m⁺} /100g			塩基飽 和 度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g	乾効 土果	30cNH ₃ -N ⁺ 発生 量 mg/100g		遊酸 化 離鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					乾土	湿土	
1	5.7	5.3	1.0	23.2	10.1	17	0.2	43.5	14.15	12.2	6.5	11.6	5.1	0.67
2	6.0	5.3	1.0	28.6	10.5	3.5	0.1	36.7	8.94	3.9	8.9	8.9	—	0.64

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては昭栄中央統、昭栄南統、温根湯統、温根湯北統等があるが、昭栄中央統とは乾湿の差異があり、昭栄南統、温根湯統、温根湯北統とは堆積様式が異り、またこれらは畑土壌なので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形 無加川流域の低平地。

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6°C 年間降水量 800 mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分は水稻が栽培され、一部は畑地に利用されている。

E 農業上の留意事項

地下水位が高いため明渠排水、暗渠排水を完全に実施することが必要である。稲作限界地帯に属するため気温較差による気象的災害を受ける場合がしばしばあるから安全確収を主眼とした品種の選定、健苗育成、初期生育の促進等が必要事項である。

F 分布 常呂郡留辺蘂町字留辺蘂、温根湯、平里等の一部。

調査及び記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式
平里南 - 平里南	II l f n

② 土壌区別説明

平 里 南 - 平 里 南

オ2層は厚さ15cm内外で腐植含量2%以下、土性はLiCが主である。色は5Yで彩度1、明度5～6、均質連結状、雲状、斑状の酸化沈積物を含む。ち密度15～18で疎、PH(H₂O)6.0～6.5、下層との境界は波状明瞭である。

オ3層は厚さ20cm内外で腐植を欠き、土性はS～SLである。色は2.5Yで彩度2、明度6のものが多く、単粒構造、雲状の酸化沈積物を含む、ち密度10前後で頗る疎、下層との境界は波状漸変である。

オ4層は地表下概ね50cm以下で、未風化細小中大円礫からなる礫層。

代表的断面形態

所在地 常呂郡留辺蘂町松山 試坑NO温23C

オ1層	0～16 cm	腐植を含む黄灰(5Y4/2)のLiC、発達弱度の細塊状構造、糸根状酸化沈積物を含む、ち密度5で頗る疎、PH(H ₂ O)5.9。調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
オ2層	16～30	腐植あり黄灰(5Y6/2)のLiC、均質連結状、膜状、雲状酸化沈積物を含む、ち密度17で疎、PH(H ₂ O)6.6、調査時の湿り湿～潤、境界波状明瞭。
オ3層	30～50	腐植を欠く黄灰(5Y6/2)のS、単粒構造、雲状酸化沈積物を含む、ち密度10で頗る疎、調査時の湿り潤、境界波状漸変、調査時の湧水地表下40cm。
オ4層	50～	Sを含む未風化細小中大円礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～16	1.8	5.1	31.9	32.0	31.0	LiC	3.73	0.38	10	6.4
2	16～30	2.1	3.9	18.3	42.2	35.6	LiC	1.09	0.15	7	1.9

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 ^{me} /100g			塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g	乾土効果	30°C NH ₃ -N 発生量 mg/100g		遊酸化 離鉄
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					乾土	湿土	
1	5.9	5.4	0.7	36.4	19.6	6.3	0.2	53.8	1.100	15.1	16.1	25.1	9.0	0.8
2	6.6	5.9	0.2	41.2	22.3	8.3	0.8	54.1	1.205	3.7	4.1	5.6	1.5	1.27

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統として川北統、温根湯統、温根湯北統、松山西統等があるが、川北統、温根湯統、温根湯北統とは堆積様式が異り、松山西統とは母材が異り、かつ何れの土壌統とも畑地なので夫々本統と区別される。

B 地形 無加川流域の低平地。

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわれて冷害凶作を受ける。

年平均気温 5.6°C 年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分水稻が栽培されている。

E 農業上の留意事項

地下水位が高いかもしくは伏流水により排水不良を呈する機会が多いから明渠排水並びに暗渠排水の完備が必要である。

稲作限界地帯に位置するため健苗育成、初期生育の促進等が重要事項となる。

F 分布 常呂郡留辺 薬町字松山の一部。

調査及び記載責任者 高尾欽彌 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡略分級式
松 山 - 松 山	II p 0

② 土壌区別説明

松 山 - 松 山

示 性 分 級 式 (水 田)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	土 表 幼 土 の 層 厚 深 さ	有 効 土 層 厚 深 さ	表 土 層 厚 深 さ	耕 転 易 性	灌 漑 水 透 透 性	作 土 下 50cm 最 高 土 密 度	酸 化 還 元 性	易 遊 離 性	グ ラ イ 鉄 化 度	土 地 乾 湿 性	自 然 肥 沃 力	保 固 層 厚 深 さ	養 分 換 換 性	置 換 性	有 効 性	微 酸 量	障 害 物 質 有 無	災 害 危 險 度	地 冠 水 の 危 険 度
t d g p					0	r	w	f	n	i	a								
ⓐ III I I I II 3 2 2 II 2 3 I 3 2 1 - - - - I 1 2 1 I 1 1 2 1 1 - 1 2 I 1 1 I 1 1																			
ⓑ III II I II 3 2 2 - - - - - III III 2 2 3 I 1 2 1 II 1 1 2 1 - - 1 2 I 1 1 I 1 1																			
簡略分級式 II p 0																			
ⓐ III w II t d p n																			

A 土壌区の特徴

この土壌区は松山統に属する。作土の厚さは 16cm 内外でやや深く、有効土層は 50cm 内外でやや

深く、有効土層は50cm内外でやや深い。作土の土性は細粒質で粘着性大で耕起碎土はやや困難である。最下層は礫層の場合が多いが地下水位高くまたは伏流水により過湿のおそれが多い。

保肥力大、燐酸固定力中で土層の塩基状態は良好である。作土は置換性苦土中庸で他の養分はおおむね存在する。下層は燐酸が少い。災害性、障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況 大部分水稻が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

明渠、暗渠排水の完備、燐酸、加里の増施が必要である。

D 分布 常呂郡留辺蘂町字松山の一部

記載責任者 高尾欽彌 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

栄 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ20cm内外で腐植含量6~7%、土性はLiCが主である。色は7.5yで彩度1、明度5のものが多い。細粒状構造で発達程度は弱度である。糸根状の酸化沈積物を含む、ち密度3~10で頗る疎、PH(H₂O)5.5~5.8、下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ15~15cmで腐植含量2~3%で、土性はHCが主である。色は5yで彩度1、明度5のものが多い、角柱状構造を呈し、細小孔を含む。糸根状酸化沈積物に富む、ち密度19~20で中PH(H₂O)5.5前後。下層との境界は波状漸変である。

オ3層は厚さ20~30cmで腐植を欠き、土性はLiCが主である。色はNで明度8のものが多い。角柱状構造で細小孔を含み、雲状の酸化沈積物に富む。ち密度20~25で中、PH(H₂O)5.1、下層との境界は波状漸変である。

オ4層は地表下おおむね60cm以下で腐植を欠き、土性はLiCが主である。色は7.5GYで彩度1明度5のものが多い。均質連結状構造で、雲状の酸化沈積物を含む。ち密度23~25で中、PH(H₂O)5.5~5.7。

代表的断面形態

所在地 常呂郡佐呂間町字上佐呂間 試坑NO、若26B

オ1層	0~18cm	腐植に富む黄灰(7.5y 5/1)のLiC、発達弱度の細粒状構造、糸根状酸化沈積物を含む、ち密度3で頗る疎、PH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
オ2層	18~35	腐植を含む淡黄灰(5y 7/1)のHC、角柱状構造、細小孔を含む、糸根状酸化沈積物に富む、ち密度19で中、PH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り湿、境界波状漸変。
オ3層	35~60	腐植を欠く灰白(N 8/0)のLiC、角柱状構造、細小孔を含む、雲状の酸化沈積物に頗る富む、ち密度23で中、PH(H ₂ O)5.1、調査時の湿り湿、境界波状漸変。
オ4層	60~	腐植を欠く緑灰(7.5y 5/1)のLiC、均質連結状、雲状の酸化沈積物を含む

ち密度 2.3 で中、PH(H₂O) 5.7、調査時の湿り潤。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0 ~ 18	3.7	2.1	20.1	37.3	40.5	LiC	3.81	0.38	10	6.6
2	18 ~ 35	4.0	1.5	6.5	27.6	64.4	HC	1.45	0.23	6	2.5
3	35 ~ 60	2.0	2.3	14.9	44.2	38.6	LiC	-	-	-	-
4	60 ~	1.6	3.2	21.8	41.6	33.4	LiC	-	-	-	-

層位	P H		置換酸 度 Y ₁	塩基置 換容量	置換性塩基 me/100g			塩基飽 和 度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g	乾土 効果	30°C NH ₃ -N 発生量 mg/100g		遊酸 化 離鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					乾土	湿土	
	1	5.8	5.3	1.0	32.8	13.1	4.0	0.3	39.9	1,120	7.1	13.6	20.6	7.0
2	5.5	4.4	22.1	41.8	13.6	6.8	0.3	32.4	1,475	4.6	0	1.4	1.4	1.97
3	5.1	4.2	12.0	29.9	8.7	6.6	0.1	29.0	938	tr	-	-	-	-
4	5.7	4.9	2.0	32.4	11.4	12.3	0.2	35.3	1,120	tr	-	-	-	-

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては瑞穂中央統、花園北統、温根湯北統等があるが、瑞穂中央統とは礫層並びにグライ層の有無により、また花園北統、温根湯北統とは母材、堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩（砂岩、頁岩風化物）

A-4 堆積様式 水 積（河成堆積）

B 地 形 佐呂間別川流域の低平地

C 気 候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわれて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6°C、年間降水量 800 mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分水稻が栽培されている。

E 農業上の留意事項

明渠、暗渠排水を完全に実施することが必要である。

稲作限界地帯に位置するから品種の選定、健苗育成、初期生育の促進等の重要事項に充分配慮することが必要である。施肥面では磷酸、加里を増施し、窒素質肥料の施肥量を調節することが必要であろう。

F 分 布 常呂郡留辺蘂町字瑞穂の一部。

調査及び記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壤区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式
栄 - 栄	II pfn

② 土壤区別説明

栄 - 栄

示性分級式（水田）

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 層 厚 深 さ	有 効 土 層 深 さ	表 土 層 粘 着 性	表 土 層 乾 硬 性	湛 水 透 水 性	作 土 厚 度	作 土 下 50cm 最 高 土 密 度	酸 化 性 有 機 物 含 量	遊 離 性 鉄 化 合 物 含 量	グ ラ イ 化 度	地 乾 湿 性	自 然 潤 肥 力	保 固 土 層 状 態	養 分 置 換 性	有 効 態 加 里 含 量	微 酸 性 素 度	障 害 性	物 質 障 害 性	災 害 性	地 冠 水 危 険 度
t d g p					l	1 2	1 2 2 2				w	f	n				i		a	
III	I I I II	3 3 2	I	1 2	I	2 2 2	- - - -	II	1 2 2	II	1 1 2 2 2	- 1 2	I	1 1	I	1 1	I	1 1	I	1 1
III	II I I III	3 3 2	- - - -	- - - -	- - - -	- - - -	III III	3 2 3	II	1 2 2	II	1 1 2 2	- - 1 2	I	1 1	I	1 1	I	1 1	I
簡略分級式		II pfn																		
		III p w II t f n																		

A 土壤区の特徴

この土壤区は栄統に属する。作土の厚さは18cm内外で深く、有効土層は1^m以上で深い。表土の土性は細粒質で粘着性強く耕起碎土はやや困難である。湛水透水性小で、土壤のグライ化はやや進むが水稻の根系障害のおそれは少ない。

保肥力大、磷酸固定力中庸で、土層の塩基状態はやや中庸である。作土は有効態磷酸、置換性加里含量中庸で、他の養分はおおむね存在する。下層は磷酸、加里はやや少ない。災害性、障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分水稻が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

明渠、暗渠排水の完備が必要である。
 施肥面では磷酸、加里を増施することが望ましい。

D 分 布 常呂郡留辺蘗町字瑞穂の一部。

(畑)

厚 和 一 厚 和

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ15cm内外で腐植含量4~5%、土性はCLが主である。色は10YRで彩度3、明度4の場合が多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度12~15で疎、PH(H₂O)6.0~6.5。下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ20cm内外で腐植含量2~3%、土性はLが主である。色は7.5YRで彩度7、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は中~強度である。細小孔含む。ち密度21~23で中、PH(H₂O)6.0~6.5、下層との境界は波状明瞭である。

オ3層は厚さ15cm内外で腐植を欠き、土性はS乃至礫土で浮石からなる。色は7.5YRで彩度8明度5である。単粒構造ち密度20前後で中、下層との境界は平坦明瞭である。

オ4層は厚さ15cm内外で腐植を欠き、土性はSである。細浮石礫に富む、色は7.5YRで彩度7、明度6である。単粒構造、ち密度20~22で中、下層との境界は波状明瞭である。

オ5層は厚さ20~30cmで腐植を欠き、土性はSである。細小中浮石礫に富む、色は7.5YRで彩度5、明度7である。単粒構造、ち密度22前後で中、灰色火山灰が浮石粒間を充填している。下層との境界は平坦明瞭である。

オ6層は地表下おおむね90cm以下で腐植を欠き、土性はCLである。未風化細小中円礫に富む。色は7.5YRで彩度5、明度7である。均質連結状で、ち密度30で甚だ密。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 常呂郡留辺蘂町字厚和 試坑NO北富4

オ1層	0~15 cm	腐植を含む灰黄褐(10YR 4/3)のCL、発達弱度の粒状構造、ち密度12で疎 PH(H ₂ O)6.5、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
オ2層	15~35	腐植あり明褐(7.5YR 5/4)のL、黒色岩片を含む、発達中度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度21で中、PH(H ₂ O)6.5、調査時の湿り、半乾、境界波状明瞭。
オ3層	35~50	腐植を欠く明褐(7.5YR 5/8)の礫土(浮石礫)、ち密度20で中、調査時の湿り半乾、境界波状明瞭。
オ4層	50~70	腐植を欠く明橙褐(7.5YR 6/5)のS、細小浮石礫に富む、単粒構造、灰色火山灰が浮石粒間を充填している。ち密度22で中、調査時の湿り半乾、境界波状明瞭。
オ5層	70~90	腐植を欠く明橙褐(7.5YR 7/5)のS、未風化細小円礫に富む、均質連結状、ち密度30で甚密、調査時の湿り半乾(洪積基盤層)。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~15	1.7	21.8	36.8	21.3	20.1	CL	2.38	0.24	10	4.1
2	15~35	3.7	21.5	38.0	27.3	13.2	L	1.23	0.14	9	2.1

層位	PH		置換酸 度 Y1	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	燐酸 吸収係数	有効態 燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.5	5.5	0.8	19.9	17.5	0.6	0.3	87.9	836	8.1
2	6.5	5.35	0.8	20.9	16.8	0.3	0.6	80.3	1080	17.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統として厚和北統、厚和南統、厚和中央統等があるが、何れも、母材、堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩、固結火成岩

A-4 堆積様式 風積/洪積世堆積

B 地形 標高 400m 内外の河成段丘で緩傾斜を呈する。

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわれて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6°C、年間降水量 800 mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて馬鈴薯、麦類、牧草その他の作物が栽培されているが、他は山林原野になつている。

E 農業上の留意事項

緩傾斜を呈するが土壌は耐侵蝕性に乏しいため水蝕のおそれがあるから等高線栽培、緑作帯設置等水蝕防止対策がある。

有機物を施用しながら漸次深耕して行くことが望ましい。

F 分布 常呂郡留辺蘂町字厚和の一部

調査及び記載責任者 高尾欽彌 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式
厚 和 - 厚 和	II tnse

オ1層は厚さ17~20cmで腐植含量5%内外、土性はCLが主である。色は7.5yRで彩度3、明度3のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度12~15で疎、PH(H₂O)6.0~6.5。下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ10~15cmで腐植含量2%内外、土性はSCLが主である。色は7.5yRで彩度6、明度4のものが多い、細塊状構造で発達程度は中~強度である。細小孔に富む、ち密度15~18で疎、PH(H₂O)6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

オ3層は厚さ20~30cmで腐植を欠き、土性はSが主である。細小浮石礫を含む、色は7.5yRで彩度8、明度5のものが多い。ち密度15~20で疎~中、下層との境界は波状明瞭である。

オ4層は厚さ10cm内外で腐植を欠き、土性はLが主である。色は7.5yRで彩度8、明度5のものが多い、塊状構造で発達程度は弱度である。ち密度18前後で疎、下層との境界は波状漸変である。

オ5層は地表下60~70cmで腐植を欠き、土性はSが主である。色は7.5yRで彩度1、明度8のものがある。単粒構造、ち密度18前後で疎。

代表的断面形態

所在地 常呂郡留辺蘂町字温根湯 試坑NO 温3 B

オ1層	0~17 cm	腐植に富む暗褐(7.5yR3/3)のCL、発達弱度の粒状構造、ち密度12度疎、PH(H ₂ O)6.7、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
オ2層	17~30	腐植を含む褐色(7.5yR4/6)のSCL、発達中度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度17で疎、PH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
オ3層	30~55	腐植を欠く明褐(7.5yR5/8)のS、細小浮石礫を含む、単粒構造、ち密度20で中、調査時の湿り半乾、境界波状明瞭。
オ4層	55~62	腐植を欠く明褐(7.5yR5/8)のL、発達弱度の塊状構造、ち密度18で、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
オ5層	62~	腐植を欠く淡褐灰(7.5yR8/1)のS、単粒構造、ち密度18で疎、調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~17	2.9	16.2	41.9	21.6	20.3	CL	2.87	0.29	10	4.95
2	17~30	3.6	22.3	44.7	16.5	16.5	SCL	1.29	0.16	9	2.22

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	燐酸吸 収係数	有効態 燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.7	5.65	0.6	21.7	20.0	0.5	0.7	92.1	659	9.5
2	5.7	5.35	0.8	19.8	7.4	0.3	1.1	37.3	1145	tr

A 土壌区の特徴

この土壌区は温根湯統に属する。作土の厚さは17～20cmで中庸、有効土層は1m以上で深い。作土の土性は中粒質で粘着性弱く耕起、碎土は容易である。保水力中、透水良好で過湿、過干のおそれは少ない。

保肥力大、磷酸固定力小、土層の塩基状態は良好である。作土は置換性苦土含量少く、有効態磷酸は中庸で、下層は磷酸、苦土が少い。

地形は緩傾斜を呈するが、土壌は耐水蝕性に乏しいため侵蝕のおそれがある。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され馬鈴薯、麦類、ビート、牧草その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

等高線栽培、緑作帯設置等水蝕防止対策が必要である。施肥面では磷酸加里を増施し、苦土を施用することが必要である。

D 分布 常呂郡留辺薬町字温根湯の一部

記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）
日 付 昭和43年3月31日

富 岡 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ20cm内外で腐植含量5～6%、土性はCLが主である。色は7.5yRで彩度3、明度3のものがある。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度13前後で疎、PH(H₂O)5.0～5.5、下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ20cm内外で腐植含量1～2%、土性はLiCが主である。色は7.5yRで彩度8、明度6のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度で、一部鱗片状を呈する。細小孔を含む、ち密度15で疎、PH(H₂O)5.0～5.5。下層との境界は波状明瞭である。

オ3層は厚さ20cm内外で腐植を欠き、土性はL～CLである。色は7.5yRで彩度4、明度7のものが多い。均質連結状で、雲状の酸化沈積物に富み、亀裂面は灰色の脈状を呈する。ち密度30前後で甚密。下層との境界は波状漸変である。

オ4層は地表下60～70cm以下で腐植を欠き、土性はSL～Lである。色は7.5yRで彩度3、明度7のものが多く、均質連結状である。ち密度30前後で甚だ密。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 常呂郡留辺薬町字富岡 試坑NO北5

オ1層	0～22cm	腐植に富む暗褐(7.5yR 3/3)のCL、発達弱度の粒状構造、ち密度13で疎、PH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
オ2層	22～42	腐植あり明橙褐(7.5yR 6/8)のLiC 発達弱度の細塊状構造、一部、鱗片状構造、細小孔を含む、ち密度18で疎、PH(H ₂ O)5.3、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
オ3層	42～65	腐植を欠く灰橙(7.5yR 7/4)のCL、風化細礫を僅かに含む、均質連結状(盤層)

		状)、雲状の酸化沈積物に富み、亀裂に沿って灰色の脈状を呈す、ち密度 30 ~ 33 で甚密、PH (H ₂ O) 5.9、調査時の湿り湿、境界波状漸変。
才4層	65 ~	腐植を欠く淡褐灰 (7.5 yR 7/2) の L-CL、均質連結状、ち密度 30 で甚密、調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0 ~ 22	1.9	10.7	40.2	26.5	22.6	CL	3.28	0.30	11	5.6
2	22 ~ 42	1.1	19.0	32.9	22.5	25.6	LiC	0.80	0.10	8	1.4
3	42 ~ 65	0.8	18.9	38.6	26.2	16.3	CL	-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷 酸 吸収係数	有効態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.7	4.7	1.8	19.5	10.4	0.5	0.2	54.1	816	5.7
2	5.3	4.2	6.5	15.1	6.0	1.1	0.3	40.0	868	2.4
3	5.9	4.3	2.5	12.7	6.4	2.2	0.5	50.3	545	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては大富南統、川北統等があるが、大富南統とは堆積様式が異り、川北統とは母材が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩 (凝灰質)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地 形 標高 240 ~ 300 m の波状状緩傾斜を呈する台地。

C 気 候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6°C、年間降水量 800 mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分畑地に利用され、牧草、馬鈴薯、麦類、ビート、その他の作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

心土破碎を実施し、暗渠排水も併せて実施することが必要である。またやや傾斜を有するところは侵蝕のおそれがあるから等高線栽培、緑作帯の設置等水蝕防止策が必要である。施肥面では磷酸、加里を増施し、苦土を施用することが望ましい。

F 分 布 常呂郡留辺蘂町字

調査及び記載責任者 高尾欽彌 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

温 根 湯 北 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ15～20cmで腐植含量3～5%、土性はCLが主である。色は10 YRで彩度4、明度4のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度15度前後で疎、PH(H₂O) 5.5前後。下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下、土性はCLが主である。色は10 YRで彩度6、明度6のものが多い。細塊状構造で発達程度は中度であり、一部鱗片状構造を呈す。細小孔に頗る富む雲状の酸化沈積物を含む。ち密度20前後で中、PH(H₂O) 5.0～5.5、下層との境界は波状漸変である。

オ3層は地表下30～50cm以下で腐植を欠き、土性はCLが主である。色は10 YRで彩度2、明度7のものが多い。均質連結状(盤層)で細小孔あり、ち密度30～34で甚密、PH(H₂O) 5.5～6.0。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 常呂郡留辺蘂町字温根湯 試坑NO温9

オ1層	0～15cm	腐植を含む褐色(10YR4/4)のCL、発達弱度の粒状構造、ち密度15で疎、PH(H ₂ O) 5.6、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
オ2層	15～35	腐植あり黄褐(10YR6/6)のCL、発達中度の細塊状構造、一部鱗片構造を呈す。細小孔に頗る富む、雲状酸化沈積物を含む、ち密度20で中、PH(H ₂ O) 5.3、調査時の湿り湿、境界波状漸変。
オ3層	35～	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR7/2)のCL、均質連結状(盤層)、細小孔あり、ち密度30～34で甚密、PH(H ₂ O) 5.7、調査時の湿り半乾～乾。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 重 g	真 比 重	全 炭 素 %	全 窒 素 %	炭 素 率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～15	1.0	18.8	33.8	24.2	23.2	CL	96.5	2.54	2.03	0.18	11	3.5
2	15～35	2.3	21.0	28.8	25.5	24.7	CL	122.7	2.66	1.09	0.11	10	1.9
3	35～	1.2	17.5	35.1	31.3	16.1	CL	—	—	—	—	—	—

層位	P H		置 換 酸 度 Y ₁	塩 基 置 換 容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 態 磷 酸 me/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.6	4.5	1.3	14.7	6.2	0.6	0.1	42.1	64.6	4.8
2	5.3	4.1	7.0	15.2	6.1	0.5	0.2	40.1	83.6	tr
3	5.7	4.1	4.0	10.7	6.0	0.9	0.4	56.0	40.4	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統として川北統、温根湯統、昭栄北統、平里南等があるが、川北統とは礫含量、母材の若干の相違、温根湯統とは母材、堆積様式が異り、昭栄北統、平里南統とは堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形 標高 300～400 m の波状性緩傾斜を呈する台地。

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわれて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6°C、年間降水量 800 mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて牧草、馬鈴薯、麦類、その他の作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

心土破碎を充分に行い、暗渠排水を軽度を実施することが必要である。草地以外は侵蝕のおそれがあるから等高線栽培その他の方法により水蝕を防止することが望ましい。

施肥面では、磷酸、加里を増施し、苦土を施用することが必要であろう。

F 分布 常呂郡留辺蘂町字温根湯の一部。

調査及び記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 別	簡略分級式
温根湯北 - 温根湯北	III d II twfnise

② 土壌区別説明

温根湯北 - 温根湯北

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	有 効 土 層 厚 深 さ	表 土 耕 耘 土 量 易 易	耕 表 土 層 厚 深 さ	表 土 耕 耘 土 量 易 易	表 土 耕 耘 土 量 易 易	土 地 風 乾 硬 乾 性 湿 度	自 然 沃 力 度	養 分 固 定 力 態 否	障 害 物 質 有 害 性	災 害 增 冠 水 危 險 性	傾 斜 自 然 傾 斜 向 斜	侵 蝕 耐 風 蝕 性
t d g p						w	f	n	i	a	s	e
III II III I I 2 1 1 II 3 2 2 II 2 1 2 II 2 2 3 2 2 2 II 1 2 I 1 1 II 2 - - II 2 2 1												
簡略分級式		III d II twfnise										

A 土壌区の特徴

この土壌区は温根湯北統に属する。作土の厚さは15～20cmで中庸、有効土層は30～50cmで浅い、作土の土性は中粒質で粘着性やや弱く耕起碎土はやや容易である。保水性中庸であるが堅密な不透水層が浅く存在するため停滞水を生じて一時的に過湿になる。また乾燥期には下層からの水分供給が殆んどないため干害を受ける場合がある。

保肥力中、磷酸固定力小で土層の塩基状態は中庸である。作土は有効態磷酸が少く、置換性加里、苦土、石灰ともにやや少い。下層はこれら養分含量が更に低い。

地形は緩傾斜を呈し水蝕のおそれがある。堅密な不透水層浅く物理的障害を受ける。

B 植生及び利用状況

大部分畑地に利用されて牧草、馬鈴薯、ビート、麦類その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

心土破碎を完全に実施し、軽度の暗渠排水を施行することが必要であり、草地以外は等高線栽培その他により水蝕を防止すること、有機物を施用しながら漸次深耕することが望ましい。

施肥面では塩基の補給即ち石灰、苦土の施肥。磷酸、加里の増施が必要であろう。

D 分布 常呂郡留辺蘂町字温根湯の一部

記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

開 拓 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ20cm内外で腐植含量10～12%、土性はCLが主である。色は10YRで彩度1、明度2。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度12～15で疎、PH(H₂O)4.7前後。下層との境界は波状明瞭である。

オ2層は厚さ15cm内外で腐植含量5～6%、土性はSLが主である。色は10YRで彩度4、明度3のものが多。細塊状構造で発達程度は弱度で、細小孔に富む。ち密度15～17で疎、PH(H₂O)5.3前後、下層との境界は漸変である。

オ3層は厚さ20～25cmで腐植含量2～3%、土性はSLが主である。色は7.5YRで彩度8、明度5のものが多。塊状構造で発達程度は弱度である。

細小孔に頗る富む、ち密度15～17で疎、PH(H₂O)5.9前後。下層との境界は漸変である。

オ4層は厚さ30cm内外で腐植を欠き、土性はSが主である。色は7.5YRで彩度4、明度8、単粒構造、ち密度15前後で疎、PH(H₂O)6.6前後。下層との境界は波状漸変である。

オ5層は地表下おおむね90cm以下で腐植を欠き、土性はSである。単粒構造、ち密度15前後で疎。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 常呂郡端野町 試坑NO端11

オ1層	0～20cm	腐植に頗る富む黒色(10YR 2/1)のCL、発達弱度の粒状構造、ち密度10で疎、PH(H ₂ O)4.7、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
オ2層	20～35	腐植に富む暗褐(10YR 3/4)のSL、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む、

		ち密度1.5で疎、PH (H ₂ O) 5.3、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
才3層	35~60	腐植を含む明褐(7.5 YR 5/8)のSL、発達弱度の塊状構造、細小孔に富む、ち密度1.7で疎、PH (H ₂ O) 5.9、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
才4層	60~90	腐植を欠く淡橙(7.5 YR 8/4)のS、単粒構造、ち密度1.5で疎、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
才5層	90~	腐植を欠く明橙褐(7.5 YR 6/4)のS、単粒構造、ち密度1.5で疎、調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~20	4.9	9.1	33.1	34.6	23.2	CL	6.44	0.38	17	11.1
2	20~35	6.8	13.4	58.6	23.2	4.8	SL	3.65	0.27	14	6.3
3	35~60	5.2	29.2	51.8	16.6	2.4	SL	1.39	0.10	14	2.4

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	4.7	4.3	5.0	28.4	10.2	1.7	0.7	35.9	8.48	11.6
2	5.3	4.3	5.7	21.3	3.7	0.6	0.6	17.3	16.18	0.8
3	5.9	5.1	0.7	10.3	1.7	0.7	0.3	16.5	12.71	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては花園北統、瑞穂中央統、温根湯北統等があるが、花園北統、温根湯北統とは母材が異り、瑞穂中央統とは堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩(軽石流風化物)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形 標高120~160mの緩波状を呈する台地

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温5.6°C、年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分畑地に利用されて、馬鈴薯、麦類、ビート、牧草、豆類その他の作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

等高線栽培、緑作帯設置等により水蝕を防止することが必要である。頂部では侵蝕によつて地力が減耗しているから有機物の施用、施肥量の増加が必要であろう。

一般に腐植に富むが、瘠薄化し易い土壌なので常に有機物を施用して地力の維持培養に努めることが肝要であろう。

F 分布 常呂郡留辺蘂町字瑞穂の一部。

調査及び記載責任者 高尾欽彌(北海道立中央農業試験場)

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式
開 拓 - 開 拓	IIIe IItfns

② 土壌区別説明

開 拓 - 開 拓

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 的 厚 深 さ	有 効 土 層 量	表 土 耕 起 易 難 性	耕 起 碎 土 混 合 性	表 土 粘 着 性	表 土 乾 硬 性	土 地 水 潤 性	透 水 性	自 然 肥 沃 度	保 固 層 力	土 層 塩 基 状 態	養 分 置 換 性	置 換 性 加 里 量	微 酸 性 加 里 量	有 機 物 害 害 障 害 有 害 性	障 害 障 害 障 害 有 害 性	災 害 危 險 性	地 冠 水 害 危 險 性	傾 斜 危 險 性	自 然 傾 斜 危 險 性	人 為 傾 斜 危 險 性	侵 蝕 危 險 性	耐 風 蝕 性	耐 水 蝕 性						
III	II	I	I	I	2	1	1	I	1	2	1	II	1	1	1	2	2	I	1	1	I	1	1	II	2	--	III	2	3	3
t	d	g	P				w		f		n						i	a	s			e								
簡略分級式		IIIe IItfns																												

A 土壌区の特徴

この土壌区は開拓統に属する。表土の厚さは15~20cmで中庸、有効土層は1m以上で深い。表土の土性は中粒質で粘着性弱く耕起碎土は容易である。保水性中庸、透水性良好で過湿、過干のおそれは少ない。本区は場所によつて断面形態が異なる。すなわち斜面上部は侵蝕によつて腐植含量少くかつ下層土が作土に混してくるため養分含量は低い。また斜面の下部は上部から水蝕によつて表土が供給堆積されて腐植層厚く養分含量もやや高い。

保肥力大、磷酸固定力中で土層の塩基状態は不良である。作土は有効磷酸、置換性加里がやや少く、下層は磷酸に欠乏し、加里、苦土がやや少ない。地形は緩傾斜を呈し侵蝕のおそれが多い。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分畑地に利用されて馬鈴薯、牧草、麦類、ビート、豆類等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

緑作帯、等高線栽培等による水蝕防止対策が必要である。瘠薄化し易い土壌であるから有機物を常に施用して地力の維持培養に努める必要がある。施肥面では流亡損失し易い加里、苦土に重点をおくことが望ましい。

川 北 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ20cm内外で腐植含量3~5%、土性はLiCが主である。半風化細小中半角、円礫に富む。色は10YRで彩度4、明度4のものが多い。細粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度12~15で疎、PH(H₂O)5.0~5.5。下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下、土性はLiCが主である。半風化細小中半角、円礫に富む。色は10YRで彩度5、明度6のものが多い。細塊状構造で発達程度は中度で細小孔を含む。雲状酸化沈積物、マンガ斑僅かにあり、ち密度20前後で中、PH(H₂O)5.0~5.5。下層との境界は波状漸変である。

オ3層は地表下30~50cmで腐植を欠き、土性はLが主である。半風化細小半角、円礫に富み、均質連結状を呈す。ち密度30前後で甚密、雲状の酸化沈積物を含む。

代 表 的 断 面 形 態

所 在 地 常呂郡留辺蘂町字温根湯 試坑 NO温 8

オ1層	0~18cm	腐植を含む褐色(10YR 4/4)のLiC、未風化細小中半角、円礫に富む、発達弱度の細粒状構造、ち密度12で疎、PH(H ₂ O)5.2、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
オ2層	18~35	腐植あり黄褐(10YR 6/5)のLiC、半風化細小中半角、円礫に富む、発達中度の細塊状構造、細小孔を含む、雲状酸化沈積物並びにマンガ斑が僅かにあり、ち密度22で中、PH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り湿、境界波状明瞭。
オ3層	35~	腐植を欠く灰黄褐(10YR 7/4)のL、半風化細小中半角、円礫に富む、均質連結状、ち密度30で甚密、調査時の湿り半乾。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~18	2.4	12.1	28.3	30.6	29.0	LiC	1.99	0.19	10	3.8
2	18~35	1.7	12.3	13.5	34.9	39.3	LiC	1.09	0.11	10	1.9

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰 飽和度 %	燐酸 吸収係数	有効態 燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.2	4.2	6.8	16.7	5.7	0.4	0.7	34.1	700	4.1
2	5.4	4.0	11.5	16.4	12.0	0.4	0.4	71.8	816	2.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては温根湯統、温根湯北統、昭栄北統、平里南統等があるが、温根湯統とは母材、堆積様式が異り、温根湯北統とは礫含量の有無と地形に相異が見られ、昭栄北統、平里南統とは堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩、固結火成岩混（流紋岩）

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形 標高340～400mの台地上の緩傾斜～傾斜地

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわれて冷害凶作を受ける。年平均気温5.6°C、年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分畑地に利用されて馬鈴薯、麦類、牧草、ビート、豆類等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

心土破碎、軽度の暗渠排水等が必要である。また傾斜を有し侵蝕のおそれがあるから等高線栽培、緑作帯の設置等水蝕防止が必要である。

燐酸、加里を増施し、苦土を施用することが望ましい。

F 分布 常呂郡留辺蘂町字松山、平里、花丘、大和の一部。

調査及び記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
川 北 - 川 北	III dn II tgpwfise

② 土壌区別説明

川 北 - 川 北

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 層 厚 度	有 効 土 層 厚 度	表 土 層 粘 着 性	耕 起 土 層 粘 着 性	表 土 層 乾 燥 性	土 層 透 水 性	自 然 保 固 力	養 分 固 定 力	置 換 性	有 機 質 含 量	微 酸 性	障 害 有 無	災 害 危 險 度	傾 斜 危 險 度	傾 斜 危 險 度	侵 蝕 危 險 度	耐 風 蝕 性	耐 水 蝕 性
Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
t	d	g	p		w		f		n			i	a	s		e		
Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	

簡略分級式 Ⅲdn Ⅱtgpwfise

A 土 壤 区 の 特 徴

この土壌区は川北統に属する。作土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は30~40cmで浅い。作土の土性は細粒質で粘着性やや強く礫に富むため耕起碎土はやや困難である。堅密な不透水層浅く停滞水等を生じて一時的に過湿になるおそれがある。

保肥力中、磷酸固定力小で土層の塩基状態は中庸もしくはやや低い。作土は有効態磷酸、苦土含量が低く、下層は磷酸、苦土、加里が少く、作土、心土とも酸性を呈する。地形は緩傾斜~傾斜を呈し侵蝕のおそれがある。ち密層浅く物理的障害を受ける。

B 植 生 及 び 利 用 状 況

大部分畑地に利用されて馬鈴薯、牧草、麦類、ビート、豆類等が栽培されている。

C 地 力 保 全 上 の 問 題 点

心土破碎、軽度の暗渠排水が必要である。緩傾斜地~傾斜地では侵蝕のおそれがあるから等高線栽培、緑作帯の設置等水蝕防止対策が必要である。

施肥面では磷酸、加里を増施し、苦土を施用することが必要であり、有機物を施用しながら深耕して行くことが望ましい。

D 分 布

常呂郡留辺薬町字松山、平里、花丘、大和の一部。

記載責任者 高尾欽彌 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

花 園 北 統

(1) 土 壤 統 の 概 説

A 土 壤 統 の 特 徴

A-2 断 面 の 特 徴

オ1層は厚さ20cm以内で腐植含量6%前後、土性はCLが主である。色は10YRで彩度3、明度3のものが多。未風化細小中半角礫を含む。粒状構造で発達程度は中度である。ち密度18

前後で疎、PH (H₂O) 6.0~5.5。下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ15cm内外で腐植含量2%以下、土性はCLが主である。色は10YRで彩度6、明度6~7、細塊状構造で発達程度は中度である。細小孔を含む、ち密度20~25で中~密、PH (H₂O) 6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

オ3層は厚さ30cm内外で腐植を欠き、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度6、明度5のものが多い。角柱状構造を呈し、一部発達中度の塊状構造を呈する。細小孔含む、雲状の酸化沈積物を含む。ち密度25~27で密、PH (H₂O) 5.5前後。下層との境界は波状漸変である。

オ4層は地表下60~70cm以下で腐植を欠き、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度6明度6~7、板状構造を呈し一部角柱状構造を呈する。ち密度28前後で密、雲状の酸化沈積物を含み、亀裂面は灰色脈状を呈す。

代表的断面形態

所在地 常呂郡留辺蘂町字花園 試坑NO 若9

オ1層	0~18cm	腐植に富む暗褐(10YR 3/3)のCL、未風化細小中半角礫を含む、発達中度の粒状構造、ち密度18で疎、PH (H ₂ O) 5.9、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
オ2層	18~32	腐植を欠く明黄褐(10YR 7/6)のCL、発達中度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度25で密、PH (H ₂ O) 6.0、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
オ3層	32~65	腐植を欠く黄褐(10YR 5/6)のLiC、発達中度の塊状構造と角柱状を呈す、細小孔含む、雲状の酸化沈積物を含む、ち密度27で密、PH (H ₂ O) 5.5、調査時の湿り湿、境界波状漸変。
オ4層	65~	腐植を欠く明黄褐(10YR 6/6)のLiC、板状構造と角柱状、雲状の酸化沈積物を含み、亀裂面は灰色脈状を呈す、ち密度28で密、調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現積地重 容 g	真比重	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	1.5	11.6	33.2	31.0	24.2	CL	91.4	2.40	3.48	0.28	12	6.0
2	18~32	3.4	16.4	31.5	29.3	22.8	CL	129.0	2.54	0.49	0.07	7	0.8
3	32~65	6.6	11.3	22.3	30.5	35.9	LiC	147.4	2.58	-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸 吸収係数	有効態 燐酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcβ			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	5.0	1.3	17.3	12.1	0.9	0.9	70.0	592	2.8
2	6.0	4.5	2.0	29.7	6.9	4.0	0.0	23.2	520	tr
3	5.5	3.9	26.5	16.9	7.0	3.2	0.3	41.4	727	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては瑞穂中統、開拓統等があるが、瑞穂中央統、瑞穂統とは堆積様

式が異り、開拓統とは母材が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材	非固結水成岩（凝灰質、流紋岩混）
A-4 堆積様式	洪積世堆積
B 地形	標高120～240mの波状性台地。
C 気候	

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温5.6℃、年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分は畑地に利用され牧草その他の飼料作物及び麦類、豆類等が栽培されている。また一部は山林原野になつている。

E 農業上の留意事項

心土破砕を行い暗渠排水を併行して実施することが必要である。有機物を施用しながら漸次深耕することが望ましい。

F 分布 常呂郡留辺蘂字花園、瑞穂、温根湯、花丘の一部。

調査及記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式
花園北 - 花園北	Ⅱ d Ⅱ t p w f n i s

② 土壌区別説明

花園北 - 花園北

示性分級式（畑）

土表有表耕	(表土の風乾の乾湿)	土透保湿	(自然保固層の性質)	(養置換の石灰含量)	(微酸の有効燐素度)	障(有害物質の無性)	災(増冠水の危険性)	(傾地すべりの危険度)	(傾自傾斜)	(侵入為傾斜)	(侵耐水風蝕蝕)	(耐風蝕蝕)																							
生土の層の厚さ	産土の層の深さ	力厚	可能	等級	t d g p	w	f	n	i	a	s	e																							
Ⅱ	Ⅲ	I	Ⅱ	2	1	2	Ⅱ	2	2	2	Ⅱ	2	1	2	Ⅱ	1	2	1	2	2	2	Ⅱ	1	2	I	1	1	Ⅱ	2	-	-	I	1	1	1
簡略分級式		Ⅱ d Ⅱ t p w f n i s																																	

A 土壌区の特徴

この土壌区は花園北統に属する。作土の厚さは18cm内外で中庸、有効土層は40～50cmで浅い

作土の土性は中粒質で粘着性やや強く、土壌は乾くと固結し耕起碎土はやや困難である。下層堅密な下透水層が浅いため停滞水を生じて一時的に排水不良を呈する。

保肥力中、磷酸固定力小で土層の塩基状態はやや中庸である。作土は有効態磷酸、苦土が少く、下層は磷酸、苦土が少い。地形は緩傾斜を呈するが侵蝕のおそれは少くなる。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分畑地に利用されて牧草、その他の飼料作物、馬鈴薯、豆類等が栽培されている。また一部は山林原野になつている。

C 地力保全上の問題点

心土破碎と暗渠排水を併せて実施することが必要である。有機物を施用しながら漸次深耕することが望ましく、施肥面では磷酸、加里を増施することが必要であろう。

D 分 布 常呂郡留辺蘂町字花園、瑞穂、温根湯、花丘の一部。

記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和 43 年 3 月 31 日

昭 栄 中 央 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ18～25cmで腐植含量2～3%、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度1、明度3のものが多く。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度15～18で疎、PH(H₂O) 5.0～5.5。下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ15～20cmで腐植含量2%以下、土性はCLが主である。色は10YRで彩度3～4、明度5。細塊状構造で発達程度は中度であり、細小孔に富む。ち密度15～17で疎、PH(H₂) 6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

オ3層は厚さ30cm内外で腐植を欠き、土性はCLが主である。色は10YRで彩度4、明度5のものが多く。細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富む。ち密度21前後で中、PH(H₂O) 6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

オ4層は地表下60～70cm以下で腐植を欠き、未風化細小中円礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 常呂郡留辺蘂町字昭栄 試坑NO 北42

オ1層	0～18cm	腐植を含む黒褐(10YR 3/1)のLiC、発達弱度の粒状構造、ち密度18で疎、PH(H ₂ O) 5.3、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
オ2層	18～38	腐植あり褐色(10YR 5/4)のCL、発達中度の細塊状構造、細小中孔に富む、ち密度17で疎、PH(H ₂ O) 5.9、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
オ3層	38～65	腐植を欠く褐色(10YR 5/4)のCL、発達弱度の細塊状構造、細小中孔に富む、ち密度21で中、PH(H ₂ O) 6.0、調査時の湿り半湿、境界波状漸変。
オ4層	65～	未風化細小中円礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	2.9	7.2	32.8	32.3	27.7	LiC	94.3	2.59	1.22	0.14	9	2.2
2	18~38	1.2	1.7	46.5	31.5	20.3	CL	103.2	2.43	0.93	0.13	7	1.6
3	38~65	1.9	3.0	55.9	25.5	15.6	CL	103.9	2.67	-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.3	4.0	16.8	21.0	10.3	1.7	0.3	48.8	738	tr
2	5.9	4.5	1.0	19.6	14.1	0.5	0.3	71.9	727	tr
3	6.0	4.3	8.8	18.8	12.5	1.0	0.3	66.5	755	2.0

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては昭栄北統、平里南統があるが、昭栄北統とは土性並びに堆積時期が異り、平里南統とはグライ層の有無、乾湿に相違があるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形 無加川流域の低平地。

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわれて冷害を受ける。年平均気温 5.6°C、年間降水量 800 mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分畑地に利用され、ビート、豆類、麦類、馬鈴薯、高級菜豆等が栽培されている。一部は水稻が栽培されている。

E 農業上の留意事項

有機物を施用しながら漸次深耕して行くことが望ましい。施肥面では磷酸、加里に重点をおくことが必要であろう。

F 分布 常呂郡留辺蘂町無加川の流域に分布。

調査及び記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式
昭栄中央 - 昭栄中央	II tdfn

② 土壌区別説明

昭栄中央 — 昭栄中央

示 性 分 級 式 (畑)

土表	有効	表土	耕起	(表土)	(表土)	(表土)	土	(透)	(保)	(湿)	自然	(保)	(固)	(土)	(養)	(置)	(有)	(微)	(酸)	(障)	(有)	(物)	(災)	(増)	(地)	(傾)	(自)	(傾)	(人)	(侵)	(耐)	(耐)		
壤	土	土	土	の	の	の	地	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	的	害	冠	す	べ	り	然	斜	為	水	風		
生	土	土	の	粘	着	乾	乾	性	性	度	沃	力	力	態	量	否	量	素	度	無	性	性	危	危	傾	傾	方	斜	斜	蝕	蝕	性	性	
産	の	の	の	性	性	性	性	性	性	度	度	力	力	態	量	否	量	素	度	無	性	性	危	危	傾	傾	方	斜	斜	蝕	蝕	性	性	
力	の	の	の	性	性	性	性	性	性	度	度	力	力	態	量	否	量	素	度	無	性	性	危	危	傾	傾	方	斜	斜	蝕	蝕	性	性	
可	の	の	の	性	性	性	性	性	性	度	度	力	力	態	量	否	量	素	度	無	性	性	危	危	傾	傾	方	斜	斜	蝕	蝕	性	性	
能	の	の	の	性	性	性	性	性	性	度	度	力	力	態	量	否	量	素	度	無	性	性	危	危	傾	傾	方	斜	斜	蝕	蝕	性	性	
性	厚	深	含	難	土	着	乾	性	性	度	沃	力	力	態	量	否	量	素	度	無	性	性	危	危	傾	傾	方	斜	斜	蝕	蝕	性	性	
等	さ	さ	量	易	性	性	性	性	性	度	沃	力	力	態	量	否	量	素	度	無	性	性	危	危	傾	傾	方	斜	斜	蝕	蝕	性	性	
級	さ	さ	量	易	性	性	性	性	性	度	沃	力	力	態	量	否	量	素	度	無	性	性	危	危	傾	傾	方	斜	斜	蝕	蝕	性	性	
	t	d	g	p			w			f				n					i		a			s										
Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	3	2	1	Ⅰ	1	2	1	Ⅱ	1	2	2	Ⅱ	1	1	2	3	1	2	Ⅰ	1	1	Ⅰ	1	1	1	1	1	1	1	1

簡略分級式 Ⅱ tdfn

A 土壤区の特徴

この土壤区は昭栄中央統に属する。作土の厚さは18~20cmで中庸、有効土層も60~70cmで中庸である。作土の土性は細粒質であるが粘着性やや弱く耕起碎土は容易である。保水性中庸、透水性良好で過湿、過干のおそれは少ない。

保肥力大、磷酸固定力中庸で土層の塩基状態は中庸である。作土は有効態磷酸少く、置換性加里は中庸、下層は磷酸、苦土が少い。地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、特殊の障害性も存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分畑地に利用されて馬鈴薯、麦類、ビート、高級菜豆その他の豆類が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

有機物を施用しながら漸次深耕して行くこと、磷酸、加里を増施することが望ましい。

D 分布

常呂郡留辺蘂町無加川流域に分布

記載責任者 高尾欽彌 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

昭 栄 北 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ18cm内外で腐植含量4~5%、土性はSCLが主である。色は10yRで彩度2、明度2のものが多。一部未風化小中大円礫に富む~頗る富むところあり、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度10~15で疎、PH(H₂O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ15~20cmで腐植含量2%以下、土性はSLが主である。色は10yRで彩度3、明度6のものが多。単粒構造で孔隙多、ち密度15~17で疎、PH(H₂O)6.0~6.3。下層との境界は波状明瞭である。

オ3層は厚さ15cm内外で腐植を欠き、土性はSLが主である。色は10yRで彩度4、明度5の

ものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富む、ち密度1.5~1.8で疎、PH (H₂O) 6.0前後。下層との境界は波状明瞭である。

オ4層は地表下おおむね50cm以下で、未風化小中円礫からなる礫層。

代表的断面形態

所在地 常呂郡留辺蘂町字大富 試抗№ 北43

オ1層	0~18cm	腐植を含む、黒褐(10YR2/2)のSCL、発達弱度の粒状構造、ち密度1.0で疎、PH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
オ2層	18~35	腐植あり灰黄橙(10YR6/3)のSL、単粒構造、孔隙多、調査時の湿り半乾、境界波状明瞭。
オ3層	35~50	腐植を欠く灰黄褐(10YR5/4)のSL、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富むち密度1.6で疎、PH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り半乾、境界波状明瞭。
オ4層	50~	未風化円礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~18	1.6	5.8	54.7	17.0	22.5	SCL	2.76	0.29	1.0	4.7
2	18~35	1.0	32.4	51.9	9.7	6.0	SL	-	-	-	0.6
3	35~50	1.5	4.5	62.1	19.9	13.5	SL	-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	4.85	1.5	22.7	15.0	0.1	10.3	66.0	5.10	14.2
2	6.3	5.0	0.8	13.9	10.4	0.9	0.6	75.8	2.42	10.5
3	6.1	4.7	1.8	19.6	15.4	0.8	0.5	78.6	6.74	29.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては昭栄中央統、温根湯北統、川北統等があるが、昭栄中央統とは土性並びに堆積時期が異り、温根湯北統、川北統とは堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(凝灰質、砂岩風化物)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地形 無加川流域の低平地。

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温5.6°C、年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分畑地に利用されて馬鈴薯、ビート、麦類、高級菜豆その他の豆類が栽培されている。

E 農業上の留意事項

有機物を施用しながら漸次深耕して行くことが望ましい。加里、苦土を施用することが望ましい。

F 分布 常呂郡留辺蘂町無加川の流域に分布。

調査及び記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式
昭栄北 - 昭栄北	II t d n

② 土壌区別説明

昭 栄 北 - 昭 栄 北

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 の 可 能 性 等 級	有 効 土 層 の 厚 さ	表 土 の 粘 着 性	耕 起 の 容 易 性	(表 土 の 乾 硬 性)	(表 土 の 乾 湿 性)	土 透 水 性	(自 然 保 肥 力)	(自 然 保 肥 力)	(養 分 固 定 力)	(養 分 固 定 力)	(養 分 固 定 力)	(養 分 固 定 力)	(障 害 性)	(障 害 性)	(障 害 性)	(災 害 性)	(災 害 性)	(傾 斜 度)	(傾 斜 度)	(傾 斜 度)	(侵 蝕 度)	(侵 蝕 度)	(耐 風 性)	(耐 風 性)
t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e														
II	II	I	I	2	1	1	I	1	1	1	II	1	3	1	1	1	I	1	1	I	1	1	1	
簡略分級式		II t d n																						

A 土壌区の特徴

この土壌区は昭栄北統に属する。作土の厚さは18cm内外で中庸、有効土層は50cm内外で中庸である。作土の土性は中粒質で粘着性弱く耕起、碎土は容易である。保水性やや小、透水良好であるが過湿、過干のおそれは少ない。

保肥力大、磷酸固定力小、土層の塩基状態は良好である。作土は置換性苦土が少く他の養分は比較的多い、下層の養分はおおむね存在する。

地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され馬鈴薯、高級菜豆その他の豆類、ビート、麦類等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

有機物を施用しながら漸次深耕すること、加里、苦土を増施すること等が望ましい。

D 分布 常呂郡留辺蘂町無加川の流域に分布。

厚 和 南 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ15~20cmで腐植含量10~15%、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度3、明度3のものが多。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.0~1.5で疎、PH(H₂O) 5.0~5.5。下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ10~15cmで腐植含量2~3%、土性はSLが主である。色は7.5YRで彩度3~4、明度4。細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔を含む、ち密度1.8前後で疎、PH(H₂O) 5.5~6.0。下層との境界は波状明瞭である。

オ3層は厚さ10cm内外で腐植を欠き、土性はSが主である。色は7.5YRで彩度3、明度7のものが多。単粒構造で、雲状の酸化沈積物を含む、ち密度1.5~1.8で疎。下層との境界は波状明瞭である。

オ4層は地表下おおむね40cm以下で、未風化円礫からなる礫層。

代表的断面形態

所在地 常呂郡留辺蘂町字厚和 試坑NO. 北富11

オ1層	0~17cm	腐植に頗る富む暗褐(7.5YR 3/3)のCL、発達程度の粒状構造、ち密度1.3で疎、PH(H ₂ O) 5.3、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
オ2層	17~29	腐植を含む灰褐(7.5YR 4/3)のSL、発達弱度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度1.8で疎、PH(H ₂ O) 5.7、調査時の湿り半乾、境界波状明瞭。
オ3層	29~40	腐植を欠く灰橙(7.5YR 6/3)のS、単粒構造、雲状の酸化沈積物を含む、ち密度1.7で疎、調査時の湿り湿、境界波状明瞭。
オ4層	40~	未風化円礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~12	1.8	14.2	45.4	21.9	18.5	CL	7.93	0.70	11	13.6
2	12~28	1.1	21.4	49.9	16.2	12.5	SL	1.56	0.19	8	2.7

層位	PH		置換酸 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.3	4.5	4.3	29.8	15.1	1.2	0.2	50.7	1840	3.7
2	5.7	4.5	2.5	18.8	14.0	0.6	1.6	74.5	606	2.4

A 土壤区の特徴

この土壤区は厚和南統に属する。作土の厚さは15～20cmで中庸、有効土層は40cm内外で浅い。作土の土性は中粒質で粘着性やや弱く耕起碎土は容易である。透水良好であるが、地下水位高いため過湿のおそれが多い。

保肥力大、磷酸固定力大で土層の塩基状態は良好である。作土は磷酸、加里が少く、酸性を呈する。下層は磷酸、苦土は少い。

地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、礫層浅く物理的障害を受ける。

B 植生及び利用状況

大部分畑地に利用されて馬鈴薯、麦類、牧草その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

明渠、暗渠排水を完備することが必要である。有機物を施用しながら漸次深耕して行くこと、磷酸、加里を増施することが必要である。

D 分布

常呂郡留辺蘂町字厚和の一部。

記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

松 山 西 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ20cm内外で腐植含量4～5%、土性はCLが主である。色は10YRで彩度4、明度3のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度10～15で疎、PH(H₂O)5.5～6.0。下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下、土性はLが主である。色は10YRで彩度5、明度7のものが多い。単粒構造を呈し、ち密度20前後で中、PH(H₂O)5.5～6.0。下層との境界は波状漸変である。

オ3層は地表下おおむね40cm以下で腐植を欠き、土性はSL～Lである。未風化中大円礫に富み、雲状の酸化沈積物を含む。ち密度24前後で中である。本層は堅密な盤層を呈する場合もある。

代表的断面形態

所在地 常呂郡留辺蘂町字松山 試坑NO 温19

オ1層	0～20cm	腐植を含む暗褐(10YR 3/4)のCL、発達弱度の粒状構造、ち密度10で疎、PH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
オ2層	20～40	腐植を欠く灰黄橙(10YR 7/5)のL、単粒構造、ち密度20で中、雲状の酸化沈積物を含む、調査時の湿り湿、境界波状漸変。
オ3層	40～	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR 7/1)のSL、未風化中大円礫に富む、雲状の酸化沈積物を含む、マンガ斑を含む、ち密度24で中、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~20	1.1	10.2	46.6	26.1	17.1	CL	2.73	0.27	11	4.7
2	20~40	0.2	4.2	51.5	33.0	11.3	L	0.28	0.04	7	0.5

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.7	4.8	1.3	19.6	11.7	0.4	0.4	59.7	8.28	7.3
2	5.7	4.2	3.8	15.1	9.5	3.3	0.8	62.9	5.80	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては川北統、温根湯統、松山統等があるが、川北統、温根湯統とは堆積様式が異り、松山統とは乾湿が異り、また水田土壌なので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形 標高320cm内外の平坦地

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわれて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6°C、年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分畑地に利用されて馬鈴薯、ビート、麦類、牧草その他が栽培されている。

E 農業上の留意事項

暗渠排水並びに下層堅密なところは心土破碎を実施することが必要である。また有機物を施用しながら漸次深耕することも必要である。

F 分布 常呂郡留辺蘂町字松山の一部。

調査及び記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
松山西-松山西	■wI tdfn

② 土壌区別説明

松山西 - 松山西

示 性 分 級 式 (畑)

土壌生産力可能性等級	有効土層の厚さ	表土の層の深さ	耕起の難易	(表土の粘着性)	(表土の乾硬性)	土地の乾湿	(透水性)	(保水性)	自然肥力	(保固力)	(養分固定力)	(置換性)	(微酸量)	(酸化素度)	(物理的障害)	(災害)	(増冠の危険)	(傾斜)	(自傾斜)	(人為的傾斜)	(侵蝕)	(耐蝕性)	(耐風性)	(耐水性)	
t	d	g	p		w			f			n		i	a		s				e					
Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ

簡略分級式 Ⅲ w Ⅱ t d f n

A 土壌区の特徴

この土壌区は松山西統に属する。作土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は60～70cmで中庸である。作土の土性は中粒質で粘着性やや弱く耕起碎土は容易である。保水性やや小、透水性中庸であるが地下水位、滲透伏流水等により過湿のおそれが多い。地表下40cm以下の土層は乱雑で一定せず礫層や盤層の出現するところが存在する。

保肥力中、磷酸固定力中庸で土層の塩基状態は良好である。作土は有効態磷酸含量中庸で置換性苦土が少い、下層は磷酸に欠乏している。

地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、ところにより堅密層の浅いところは物理的障害を受ける。

B 植生及び利用状況

大部分畑地に利用され、馬鈴薯、牧草、麦類、豆類等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

暗渠排水を完備し、一部存在する下層堅密なところは心土破碎が必要である。また有機物を施用しながら漸次深耕すること、磷酸、加里を増施し、苦土を施用することが望ましい。

D 分 布

常呂郡留辺蘂町字松山の一部

記載責任者 高尾欽彌(北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

金 華 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ20cm内外で腐植含量2～3%、土性はLiCが主である。未風化細小中円礫を含む色は7.5YRで彩度4、明度4のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度10～15で疎、PH(H₂O)5.5～6.0。下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下、土性はClが主である。色は7.5YRで彩度6、明度4のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度で、細小孔に富む。ち密度19～20で中、PH(

H₂O) 6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

才3層は地表下おおむね40cm以下で、未風化、風化細小中円礫からなる礫層。

代表的断面形態

所在地 常呂郡留辺蘂町字金華 試坑NO 39

才1層	0~20cm	腐植を含む褐色(7.5YR4/4)のLiC、未風化細小中円礫を含む、発達弱度の粒状構造、ち密度1.0で疎、PH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
才2層	20~38	腐植あり褐色(7.5YR4/6)のCL、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度1.9で中、PH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
才3層	38~	未風化細小中円礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~20	1.2	13.5	33.3	23.0	30.2	LiC	1.57	0.21	7	2.7
2	20~38	2.6	21.7	36.2	20.2	21.9	CL	0.89	0.14	6	1.5

層位	PH		置換酸 度 Y1	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸 吸収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	4.6	2.3	27.7	20.6	3.3	0.2	74.5	767	5.3
2	6.1	4.4	4.0	34.1	20.4	3.3	0.2	59.9	1090	2.5

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては大富統、昭栄南統、昭栄北統等があるが、大富統、昭栄南統とは堆積様式が異り、昭栄北統とは母材が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(流紋岩、赤色珪岩風化物)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地形 奔無加川流域の低平地。

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温5.6°C、年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて、馬鈴薯、麦類、豆類、ビートその他の作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

有機物を施用しながら漸次深耕すること。磷酸、加里を増施することが必要である。山際、凹地は一部排水不良を呈するからかかる場所は明渠或は暗渠排水を実施することが必要であろう。

F 分布 常呂郡留辺蘂町字金華の大部分。

厚 和 中 央 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ15cm内外で腐植含量4~5%、土性はCLが主である。半風化細小中円礫を含む。色は10YRで彩度3~4、明度3。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.0~1.5で疎、PH(H₂O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ25~35cmで腐植含量2%以下、土性はCLが主である。半風化細小中円礫を含む。色は10YRで彩度4、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は中~強で、細小孔に富む。ち密度2.0前後で中、PH(H₂O)5.5。下層との境界は波状漸変である。

オ3層は厚さ10~15cmで腐植を欠き、土性はS~SLである。未風化細小中円礫を含む。色は10YRで彩度4、明度5のものが多い。単粒構造、ち密度1.5~1.8で疎。下層との境界は波状漸変である。

オ4層は地表下おおむね50cm以下で未風化細小中大円礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 常呂郡留辺蘂町字厚和 試坑NO北富9

オ1層	0~14cm	腐植を含む暗褐(7.5YR 4/4)のCL、半風化細小中円礫を含む、発達弱度の粒状構造、ち密度1.2で疎、PH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
オ2層	14~38	腐植あり灰褐(10YR 5/4)のCL、半風化細小中円礫を含む、発達強度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度2.0で中、PH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
オ3層	38~50	腐植を欠く灰褐(10YR 5/4)のS、未風化細小中円礫を含む、単粒構造、ち密度1.7で疎、調査時の湿り半湿、境界波状漸変。
オ4層	50~	未風化細小中大円礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~14	1.2	24.8	38.1	21.6	15.5	CL	103.1	2.53	2.77	0.24	12	4.7
2	14~38	1.4	13.7	40.0	27.8	18.5	CL	113.0	2.53	0.80	0.09	9	1.4

層位	PH		置 換 酸 度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.1	5.0	0.6	22.4	19.0	0.8	0.1	85.8	606	6.1
2	5.5	4.1	6.0	17.2	10.7	0.4	0.1	62.2	606	tr

A 土壌区の特徴

この土壌区は厚和中央統に属する。作土の厚さは15cm内外でやや中庸、有効土層は50cm内外でやや中庸である。作土の土性は中粒質で粘着性弱く耕起碎土は容易である。保水性やや中庸、透水良好で過湿、過干のおそれは少ない。しかし局所的に分布する礫質地は過干のおそれがある。

保肥力大、磷酸固定力小で土層の塩基状態は良好である。作土は有効態磷酸、置換性加里、苦土がやや少く、下層は磷酸、加里、苦土ともに極く少ない。地形は平坦で侵蝕のおそれはない、特殊の障害性も存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分畑地に利用されて、馬鈴薯、牧草、麦類その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

有機物を施用しながら漸次深耕すること、磷酸、加里を増施し、苦土を施用することが必要である。また局所的に分布する礫質他には客土或は有機物の投入が必要であろう。

D 分 布 常呂郡留辺蘂町字厚和の一部。

記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

厚 和 北 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ15cm内外で腐植含量2～3%、土性はSLが主である。未風化、風化細小中円礫に富む、色は10YRで彩度4、明度3のものが多い。細粒状構造で発達程度は極く弱度である。ち密度10以下で頗る疎、PH(H₂O) 5.5～6.0。下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ15cm内外で腐植含量2～3%、土性はSLが主である。色は10YRで彩度4、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は極く弱度である。細小孔に富む、ち密度15～18で疎、PH(H₂O) 6.0前後。下層との境界は不規則である。

オ3層は地表下おおむね30cm以下で、未風化細小中大円礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 常呂郡留辺蘂町字厚和 試坑NO 北富13

オ1層	0～15cm	腐植を含む暗褐(10YR 3/4)のSL、未風化、風化細小中円礫に富む、発達弱度の細粒状構造、ち密度7で頗る疎、PH(H ₂ O) 5.8、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
オ2層	15～30	腐植を含む灰黄褐(10YR 5/4)のSL、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富むち密度17で疎、PH(H ₂ O) 6.2、調査時の湿り半乾、境界不規則明瞭。
オ3層	30～	未風化細小中大円礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0 ~ 15	1.1	3.0	68.9	15.0	13.1	SL	1.37	0.16	9	2.4
2	15 ~ 30	1.3	28.6	52.7	10.2	8.5	SL	1.66	0.17	10	2.9

層位	PH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	4.7	0.6	18.0	14.2	0.8	0.9	78.9	848	11.3
2	6.2	4.9	1.0	23.9	18.1	0.8	0.5	75.9	525	17.0

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては厚和中央統、シヨマツブ沢統があるが、本統とは土性並びに礫層の出現位置が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（凝灰質その他）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形 無加川上流域の低平地

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわれて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6°C、年間降水量 800 mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分畑地に利用されて、馬鈴薯、牧草、麦類その他の作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

有機物を施用しながら漸次深耕することが必要である。一部巨大礫の出現するところは除礫を要し、礫質地は客土或は有機物の重点的投入を要する。

F 分布 常呂郡留辺蘂町字厚和の一部。

調査及び記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式
厚和北 - 厚和北	III d II t g f n i

② 土壌区別説明

厚和北 - 厚和北

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	(表)	(表)	(表)	土	(透)	(保)	(湿)	自	(保)	(固)	養	(置)	(有)	(微)	(酸)	障	(有)	(物)	(災)	(增)	(地)	傾	(自)	(傾)	人	侵	(耐)	(耐)
壤	効	効	土	土	土	土	土	地	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	微	害	理	害	冠	す	自	斜	為	耐	耐		
生	土	土	の	の	の	の	の	乾	性	性	度	沃	力	力	態	量	量	量	量	害	質	障	害	の	の	傾	傾	傾	傾	傾	傾	
産	層	層	の	の	の	の	乾	性	性	度	沃	力	力	態	量	量	量	量	害	質	障	害	の	の	傾	傾	傾	傾	傾	傾	傾	
力	の	の	の	の	の	の	乾	性	性	度	沃	力	力	態	量	量	量	量	害	質	障	害	の	の	傾	傾	傾	傾	傾	傾	傾	
可	厚	深	含	難	土	着	性	性	度	沃	力	力	態	量	量	量	量	害	質	障	害	の	の	傾	傾	傾	傾	傾	傾	傾		
能	さ	さ	量	易	性	性	度	沃	力	力	態	量	量	量	量	量	量	量	害	質	障	害	の	の	傾	傾	傾	傾	傾	傾	傾	
性	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等
級	t	d	g	p			w			f			n							i		a			s							
Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	
簡	略	分	級	式			Ⅱ	d	Ⅱ	t	g	f	n	i																		

A 土壤区の特徴

この土壤区は厚和北統に属する。作土の厚さは15cm内外でやや中庸、有効土層は30cm内外で極く浅い。作土の土性はSLで粘着性弱く耕起碎土は容易である。保水性小、透水性過良であるが過干のおそれは少ない。

保肥力中、磷酸固定力中、土層の塩基状態は良好である。作土、心土とも置換性苦土がやや少く、他の養分はおおむね存在する。地形は平坦で侵蝕のおそれはない。礫層極く浅く物理的障害を受ける。

B 植生及び利用状況

大部分畑地に利用されて、馬鈴薯、牧草、麦類その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

有機物を施用して深耕すること、苦土質肥料を施用すること等が必要である。地表から巨大円礫の存在するところは除礫、礫質地は客土、有機物の重点投入等を要する。

D 分布 常呂郡留辺薬町字厚和の一部。

記載責任者 高尾欽彌 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

瑞 野 東 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ20cm内外で腐植含量2%内外、土性はLSが主である。色は7.5YRで彩度3、明度4のものが多い。単粒構造、ち密度1.0以下で頗る疎、PH(H₂O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ30~40cmで腐植を欠き、土性はSが主である。色は1.0YRで彩度4、明度5のものが多い。単粒構造、ち密度1.0~1.5で疎、PH(H₂O)6.0~6.5。下層との境界は波状明瞭である。

オ3層は地表下おおむね50cm以下で、未風化小中大円礫からなる礫層。

代表的断面形態

所在地 北見市字小泉 試坑 NO 北 57

才1層	0~20cm	腐植あり褐色(7.5YR4/)のLS、単粒構造、ち密度8で頗る疎、PH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り半乾~乾、境界平坦明瞭。
才2層	20~50	腐植を欠く灰褐(7.5YR5/)のS、単粒構造、ち密度13で疎、PH(H ₂ O)6.4、調査時の湿り半乾、境界波状明瞭。
才3層	50~	未風化細小中大円礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~20	2.3	48.7	38.1	7.4	5.8	LS	0.90	0.10	9	1.6
2	20~50	0.4	60.6	34.0	4.4	1.0	S	-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 %	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 mg/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	5.5	0.3	19.6	12.3	0.3	0.8	62.7	560	65.9
2	6.4	5.5	0.3	16.6	8.2	2.1	0.0	49.4	924	12.9

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては昭栄中央、平里南統等があるが、昭栄中央統とは土性の配列並びに礫層の出現位置が異り、平里南統とは乾湿が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(砂岩その他の風化物)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地 形 無加川流域の低平地。

C 気 候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6°C、年間降水量 800 mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて馬鈴薯、麦類、ビート、そ菜その他の作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

有機物を施用しながら漸次深耕すること、苦土を施用すること等が必要である。局所的に散在する礫質地や砂地では客土も必要であろう。

F 分 布 常呂郡留辺蘂町無加川流域の一部。

調査及び記載責任者 高尾欽彌(北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

富む、色は10YRで彩度3、明度3のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度11前後で疎、PH(H₂O)6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

オ2層は厚さ10~20cmで腐植含量2%以下、土性はLが主である。色は10YRで彩度4、明度4~5。細塊状構造で発達程度は中~強で、細小孔に富む。ち密度15~18で疎、下層との境界は波状明瞭である。

オ3層は地表下おおむね40cm以下で、未風化細小中大半角礫からなる礫層。

代表的断面形態

所在地 常呂郡留辺蘂町字シヨマツプ沢 試坑NO北富14

オ1層	0~25cm	腐植に富む暗褐(10YR 3/3)のSCL、半風化小中大円礫に富む、発達弱度の粒状構造、ち密度11で疎、PH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭。
オ2層	25~38	腐植を欠く褐色(10YR 4/4)のL、発達強度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度17で疎、調査時の湿り半乾、境界波状明瞭。
オ3層	38~	未風化小中大半角礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~27	1.9	25.8	38.6	19.6	16.0	SCL	3.19	0.32	10	5.6

層位	PH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	4.9	1.0	24.1	18.3	0.4	1.4	75.9	755	35.5

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては厚和北統、厚和南統等があるが、厚和北統とは母材が異り、厚和南統とは乾湿に差がある。また厚和統とは堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(流紋岩、砂岩礫混入)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地形 シヨマツプ川その他の小河川の流域。

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温5.6°C、年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分畑地に利用されて牧草、馬鈴薯、豆類、麦類等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

有機物を施用しながら漸次深耕することが必要である。礫質地が所々に分布するがかかるところは客土或は有機物の重点的投入が望ましい。

F 分布 常呂郡留辺蘂町シヨマツプ沢その他小河川の流域に分布。

(2) 土壌統の細分
 ① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式
シヨマツプ沢 - シヨマツプ沢	■ d II g(w) ni

② 土壌区別説明

シヨマツプ沢 - シヨマツプ沢

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 効 土 層 厚 深 さ	有 効 土 層 深 さ	表 土 層 粘 着 性	耕 起 碎 土 容 易 性	(表 土 層 粘 着 性)	(表 土 層 粘 着 性)	土 質 乾 湿 性	(透 水 性)	(保 水 性)	自 然 肥 沃 度	(保 固 層 肥 力)	(定 塩 基 状 態)	養 分 置 換 性	(石 灰 含 量)	(苦 土 含 量)	(加 酸 性)	(微 酸 性)	障 害 有 害 性	(物 理 的 障 害)	災 害 危 險 性	(増 冠 水 危 險)	(地 す べ り 危 険)	傾 斜 傾 方	(自 然 傾 斜)	(人 為 傾 斜)	侵 蝕 度	(水 蝕)	(風 蝕)	(耐 蝕 性)		
t d g p							w			f			n					i		a			s				e				
■ I	■ II	■ II	I	2	1	1	(II)	1	3	(2)	I	1	2	1	II	1	3	1	1	2	2	II	1	2	I	1	1	I	1	1	1
簡略分級式		■ d II g(w) ni																													

A 土壌区の特徴

この土壌区はシヨマツプ沢統に属する。作土の厚さは20~25cmで深く、有効土層は30cm内外で甚だ浅い。作土の土性は中粒質で粘着性弱く耕起碎土は容易である。保水性小で透水性過良で礫に富むため過干のおそれがある。

保肥力大、磷酸固定力中で土層の塩基状態は良好である。作土は置換性苦土含量低いが他の養分はおおむね存在する。

地形は平坦で侵蝕のおそれはない、礫層浅く物理的障害を受ける。

B 植生及び利用状況

大部分畑に利用され、馬鈴薯、牧草、麦類、豆類その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

有機物を施用しながら漸次深耕することが必要である。礫質他は客土、有機物の投入等が望ましい。

D 分 布

常呂郡留藻町シヨマツプ沢その他小河川の流域に分布。

記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

瑞 穂 南 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ15cm内外で腐植含量3~4%、土性はLiCが主である。色は10yRで彩度3、明度4のものが多い、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度20前後で中、PH(H₂O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭。

オ2層は厚さ10~20cmで腐植含量2%以下、土性はLiCが主である。色は10yRで彩度4明度4~5。細塊状構造で発達程度は中~強度で、細小孔を含む。ち密度20~23で中、PH(H₂O)6.0~6.5、下層との境界は波状漸変である。

オ3層は厚さ30~50cmで腐植を欠き、土性はLiCが主である。色は10yRで彩度4、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は中~強度である、細小孔に富む。ち密度20~23で中PH(H₂O)6.0~6.5。下層との境界は波状明瞭である。

オ4層は地表下おおむね60cmで腐植を欠き、未風化小中大円礫からなる礫層。

代表的断面形態

所在地 常呂郡留辺蘂町字瑞穂 試坑NO若22

オ1層	0~15cm	腐植を含む灰黄褐(10yR4/3)のLiC、発達弱度の粒状構造、ち密度20で中、PH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
オ2層	15~35	腐植あり褐色(10yR4/4)のLiC、発達強度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度23で中、PH(H ₂ O)6.5、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
オ3層	35~65	腐植を欠く灰黄褐(10yR5/4)のLiC、発達中度の細塊状構造、細孔に富む、ち密度22で中、PH(H ₂ O)6.3、調査時の湿り湿、境界波状明瞭。
オ4層	65~	未風化細小中大円礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~15	2.7	1.8	18.6	37.9	41.7	LiC	2.27	0.28	8	3.9
2	15~35	2.7	0.9	15.8	42.6	40.7	LiC	0.81	0.12	7	1.4
3	35~	2.6	4.3	38.4	31.5	25.8	LiC	-	-	-	-

層位	PH		置換酸 度 Y1	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸 吸収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.1	4.7	2.3	29.4	24.3	3.8	0.4	82.7	1.070	13.6
2	6.5	4.7	1.5	25.8	20.5	4.6	0.2	79.5	1.090	tr
3	6.3	4.5	2.3	20.4	18.1	1.5	0.1	88.7	845	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては瑞穂中央統があるが、乾湿が異りかつ水田土壌なので本統と区別される。

加里が少ない。

地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、特殊の障害性も存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分畑地に利用されて、馬鈴薯、ビート、豆類、麦類その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

有機物を施用しながら漸次深耕して行くことが必要である。一部過湿のおそれのあるところは軽度の排水を要する。

D 分 布 常呂郡留辺蘂町字瑞穂の一部。

記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

佐 呂 間 中 央 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

才1層は厚さ20cm内外で腐植含量4~5%、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度3、明度3のものが多い。未風化、半風化細小中半角礫を含む、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度15~18で疎、PH(H₂O)6.0~7.0、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。

才2層は厚さ10~15cmで腐植含量2%以下、土性はCLが主である。色は10YRで彩度6、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は中度で、細小孔に富む。ち密度20で中、PH(H₂O)6.1。下層との境界は波状漸変である。

才3層は地表下おおむね40cm以下で、未風化小中大円礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 常呂郡留辺蘂町字瑞穂 試坑NO 若21

才1層	0~22cm	腐植を含む暗褐(10YR 3/3)のLiC、未風化、半風化小中半角礫を含む、発達弱度の粒状構造、ち密度16で疎、PH(H ₂ O)7.2、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
才2層	22~35	腐植あり黄褐(10YR 5/6)のCL、発達中度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度20で中、PH(H ₂ O)6.1。調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
才3層	35~	未風化小中大円礫から礫層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~22	4.4	6.5	21.3	44.3	27.9	LiC	2.42	0.27	9	4.1
2	22~35	3.5	27.0	35.3	20.2	17.5	CL	0.63	0.09	7	1.1

層位	P H		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	7.2	5.8	1.00	25.2	25.2	1.0	0.3	100.0	777	23.4
2	6.1	4.7	1.80	13.7	9.7	0.9	0.1	70.8	624	2.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては瑞穂中央統、若佐中央統、花園北統等があるが、瑞穂中央統、若佐中央統は水田土壌であり、花園北統とは堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（砂岩風化物主）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形 佐呂間別川上流域の低平地。

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6°C、年間降水量 800 mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて、馬鈴薯、ビート、豆類、麦類その他の作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

有機物を施用しながら深耕して行くことが必要である。

F 分布 常呂郡留辺蘂町字瑞穂の一部

調査及び記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式
佐呂間中央 - 佐呂間中央	II t p n

② 土壌区別説明

佐呂間中央 - 佐呂間中央

示性分級式(畑)

土壌	有効土層の厚さ	表土の層の深さ	耕起の難易	(表土の粘着性)	(表土の乾硬さ)	土壌の湿度	自然肥力	自肥力	固定力	養分塩基状態	置換性	苦土加里	微酸量	酸素度	物理的障害の有無	物理的障害の危険性	増冠水の危険度	傾斜の危険度	自然傾斜	人為傾斜	侵蝕の危険度	耐水性	耐風性	
t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e														
Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	3	2	2	Ⅰ	1	2	1	Ⅱ	1	1	2	2	1	1	Ⅰ	1	1	Ⅰ	1	1	1
簡略分級式				Ⅱ t p n																				

A 土壌区の特徴

この土壌区は佐呂間中央統に属する。作土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は30～40cmで浅い。作土の土性は細粒質で粘着性強く耕起碎土はやや困難である。保水性中庸、透水性良好で過湿、過干のおそれは少ない。

保肥力大、磷酸固定力中で土層の塩基状態は良好である。作土は置換性加里、苦土が中庸で他の養分は比較的存在する。下層は磷酸、加里が少く、苦土は中庸である。地形は平坦で侵蝕のおそれはない、礫層が浅く物理的障害を受ける。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて馬鈴薯、ビート、豆類、麦類その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

有機物を施用して深耕することが必要であり、磷酸、加里を増施することが必要である。

D 分布 常呂郡留辺蘂町瑞穂 一部。

記載責任者 高尾欽彌(北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

富岡西統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ20cm内外で腐植含量3～4%、土性はCLが主である。風化小中半角礫を含む、色は7.5YRで彩度3、明度3のものが多い。細粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度10内外で疎、PH(H₂O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ10～15cmで腐植含量2%以下、土性はCLが主である。風化細小中半角礫に富む色は7.5YRで彩度3、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富む、ち密度15前後で疎、PH(H₂O)6.0～6.5。下層との境界は波状漸変である。

オ3層は厚さ20～30cmで腐植を欠き、土性はCLが主である。風化、腐朽細小中半角礫に富み色は7.5YRで彩度3、明度5～6。細塊状構造で発達程度は中度で、細小孔に富む。ち密度15

～18で疎、PH (H₂O) 6.0～6.5。下層との境界は波状漸変である。

才4層は厚さ20cm内外で腐植を欠き、土性はSCLが主である。風化、腐朽細小中半角礫に頗る富む、色は10YRで彩度3、明度5～6である。細塊状構造で発達程度は中度である。ち密度20前後で中、PH (H₂O) 6.0～6.5。下層との境界は漸変である。

才5層は地表下おおむね80cm以下で、風化、腐朽小中大半角礫からなる礫層。

代表的断面形態

所在地 常呂郡置戸町 試坑NO 北 33.

才1層	0～20cm	腐植を含む暗褐(7.5YR 3/3)のCL、風化小中半角礫を含む、発達弱度の細粒状構造、ち密度10で疎、PH (H ₂ O) 6.0、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
才2層	20～33	腐植あり灰褐(7.5YR 5/3)のCL、風化細小中半角礫に富む、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度15で疎、PH (H ₂ O) 6.5、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
才3層	33～60	腐植を欠く灰橙(7.5YR 6/3)のCL、風化、腐朽細小中半角礫に富む、発達中度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度17で疎、PH (H ₂ O) 6.4、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
才4層	60～80	腐植を欠く灰黄橙(10YR 6/3)のSCL、風化、腐朽細小中半角礫に頗る富む、発達中度の細塊状構造、ち密度20で中、PH (H ₂ O) 6.5、調査時の湿り半乾、境界漸変。
才5層	80～	風化、腐朽細小中半角礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～20	3.4	27.7	32.0	24.3	16.0	CL	2.19	0.24	9	3.8
2	20～33	3.2	32.3	26.2	23.5	18.0	CL	0.68	0.09	7	1.2
3	33～60	2.0	29.1	30.9	22.4	17.6	CL	—	—	—	—
4	60～80	2.5	39.2	27.8	17.5	15.5	SCL	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	5.0	0.5	21.1	16.2	0.4	1.6	76.8	603	24.8
2	6.5	5.1	0.5	20.1	14.9	0.5	1.9	74.1	721	0.8
3	6.4	5.0	0.8	26.1	15.6	0.9	2.3	59.7	760	1.2
4	6.5	4.6	1.3	33.4	22.6	1.2	5.5	—	—	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては温根湯統、昭栄南統があるが、何れも母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 固結火成岩（凝灰角礫岩）

A-4 堆積様式 崩積（残残性匍行土）

B 地形 標高200m前後の波状性台地

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年間降水量800mm前後、年平均気温5.6℃。

D 植生及び利用状況

大部分畑地に利用されて、馬鈴薯、豆類、麦類、牧草等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

等高線栽培、緑作帯設置等により水蝕防止対策を構ることが必要である。有機物を施用しながら漸次深耕することが望ましい。

F 分布 常呂郡留辺蘂町字旭の一部。

調査及び記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式
富岡西 - 富岡西	Ⅲ s Ⅱ t d n e

② 土壌区別説明

富岡西 - 富岡西

示性分級式(畑)

土表有表耕	(表表表)	土	(透保)	(自保)	(養置)	(有微)	(障有)	(災增)	(傾地)	(傾自)	(侵人)	(耐耐)
壤生産力可能性等級	効土の層の厚さ	土の風乾の硬さ	水水潤肥肥定塩の石苦加燐	然	層分の性態量	効態量	物理的障害有害性	害の危険度	すべりの危険度	然斜傾方	為傾	水風蝕蝕
t d g p		w	f	n	i	a	s	e				
Ⅲ Ⅱ Ⅰ Ⅰ 2 1 1 Ⅰ 1 2 1 Ⅰ 1 1 1 Ⅱ 1 3 1 1 1 Ⅰ 1 1 Ⅰ 1 1 Ⅲ 3 - - Ⅱ 2 2 1												
簡略分級式	Ⅲ s Ⅱ t d n e											

A 土壌区の特徴

この土壌区は富丘西統に属する。作土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は80cm内外で中庸である。作土の土性は中粒質で礫を含むが粘着性やや弱く耕起碎土は容易である。保水性中庸、透水性良好で過湿、過干のおそれはない。

保肥力大、磷酸固定力小で土層の塩基状態は良好である。作土は有効態磷酸、置換性苦土が少く、下層も磷酸、苦土が少い。

地形は波状性傾斜地で侵蝕のおそれが多い。特殊の障害性、災害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分畑地に利用されて、馬鈴薯、豆類、麦類、牧草その他が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

等高線栽培、緑作帯設置等水蝕防止対策が必要である。有機物を施用しながら漸次深耕すること、苦土質肥料の施用が望ましい。

D 分 布 常呂郡留辺薬町字旭の一部。

記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和 43 年 3 月 31 日

豊 金 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ15cm内外で腐植含量6~7%、土性はLが主である。半風化、風化細小中半角礫に頗る富む、色は10YRで彩度3、明度3のものが多い。細粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度10前後で疎、PH(H₂O)5.7。下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ15cm内外で腐植含量2%前後、土性はLが主である。半風化、風化細小中半角礫に頗る富む。色は10YRで彩度3、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は中度で、細小孔に富む。ち密度19前後で疎から中、PH(H₂O)6.0前後。下層との境界は波状漸度である。

オ3層は厚さ20cm内外で腐植を欠き、土性はLが主である。半風化、風化細小中半角礫に頗る富む。色は10YRで彩度4、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は中~強度で、細小孔に富む。ち密度19前後で疎~中、PH(H₂O)6.2。下層との境界は波状漸変である。

オ4層は地表下おおむね50cm以下で、半風化細小中大半角礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 常呂郡留辺薬町字豊金 試坑NO 若1

オ1層	0~14cm	腐植に富む暗褐(10YR 3/3)のL、半風化、風化細小中半角礫に頗る富む、発達弱度の細粒状構造、ち密度10で疎、PH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
オ2層	14~30	腐植あり灰黄褐(10YR 5/3)のL、半風化、風化細小中半角礫に頗る富む、発達中度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度19で中、PH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
オ3層	30~50	腐植を欠く灰黄褐(10YR 5/4)のL、半風化、風化細小中半角礫に頗る富む。発達中度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度19で中、PH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
オ4層	50~	半風化、風化細小中半角礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~14	0.7	28.7	32.6	26.1	12.6	L	4.03	0.31	13	6.9
2	14~30	1.3	27.1	29.4	29.5	13.9	L	1.16	0.11	11	2.0
3	30~50	1.9	32.7	25.4	29.1	12.8	L	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.7	4.6	1.8	14.7	8.2	0.8	0.4	55.8	485	11.3
2	6.0	4.7	1.3	7.6	4.3	0.4	0.4	56.6	424	2.4
3	6.2	4.8	1.3	6.7	4.3	0.6	0.6	64.2	408	2.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては北統があるが母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 固結火成岩（流紋岩）

A-4 堆積様式 崩積

B 地形 標高320~380mの波状性傾斜地。

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6°C、年間降水量 800 mm 前後。

D 植生及び利用状況

耕地には牧草、飼料作物、麦類等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

侵蝕のおそれがあるから等高線栽培、緑作帯設置により水蝕防止対策を構ずる必要がある。巨大礫巨岩の多いところは除礫も必要となる。

有機物を施用し、加里、苦土を増施することが望ましい。

F 分布 常呂郡留辺蘂町字豊金の一部

調査及び記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
豊金 - 豊金	dgs tpfnie

② 土壌区別説明

豊金 - 豊金

示性分級式(畑)

土壌	表土	有効土層	表土の層	耕起の難	表土の粘着性	表土の乾硬さ	土壌の乾燥性	自然潤肥力	自保肥力	固定力	養分塩基状態	置換性	微酸量	有微酸量	障害物質の有無	物理的障害	増冠水の危険度	傾斜の危険度	自然傾斜	人為的傾斜	侵蝕の度	耐風性	耐水性	
t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e														
Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	2	1	1	I	1	3	1	Ⅱ	2	1	1	Ⅱ	1	2	1	1	1	2	Ⅱ	1	2
簡略分級式		Ⅲ d g s Ⅱ t p f n i e																						

A 土壌区の特徴

この土壌区は金華統に属する。作土の厚さは15cm内外で中庸で、有効土層は40~50cmで浅い。作土の土性は中粒質で粘着性中庸であるが礫に頗る多いため耕起、砕土は困難である。保水性中庸で透水良好であり、過湿、過干のおそれは少ない。

保肥力中、燐酸固定力は小で土層の塩基状態はおおむね良好である。作土は置換性苦土がやや少ないが他の養分含量はおおむね存在する。下層は燐酸、苦土が少い。地形は傾斜を有し侵蝕のおそれがある。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

畑地には牧草、飼料作物、麦類その他の作物が栽培され、その他の大部分は山林原野になつている。

C 地力保全上の問題点

等高線栽培、緑作帯設置等による水蝕防止対策が必要である。有機物を施用し、加里、苦土を増施することが望ましい。巨大礫、巨岩の多いところは除礫が必要である。

D 分布 常呂郡留辺蘂町字豊金の一部。

記載責任者 高尾欽彌(北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

大 富 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ20cm内外で腐植含量3~5%、土性はLが主である。半風化、風化細小中半角礫に富む、色は10YRで彩度2、明度3のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度10~15で疎、PH(H₂O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ15~20cmで腐植含量2%以下で、土性はOLが主である。半風化、風化細小中半角礫に富む、色は10YRで彩度3、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は中度で、細小孔に富む。ち密度18前後で疎、PH(H₂O)6.5前後。下層との境界は波状漸変である。

オ3層は厚さ20~30cmで腐植を欠き、土性はSLが主である。半風化、風化細小中半角礫に頗

る富む、色は10YRで彩度4、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度で、細小孔に富む。ち密度1.8前後で疎、PH(H₂O) 6.5前後。下層との境界は波状漸変である。

オ4層は地表下概ね60cm以下で、未風化、風化細小中大半角礫からなる礫層であるが、僅かに土壌を混ざる。

代表的断面形態

所在地 常呂郡留辺蘂町字大富 試坑NO北7

オ1層	0~18cm	腐植を含む黒褐(10YR 3/2) L、半風化、風化細小中半角礫に富む、発達弱度の細粒状構造、ち密度1.3で疎、PH(H ₂ O) 6.2、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
オ2層	18~35	腐植あり灰黄褐(10YR 5/3) のCL、半風化、風化細小中半角礫に富む、発達中程度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度1.8で疎、PH(H ₂ O) 6.9、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
オ3層	35~60	腐植を欠く灰黄褐(10YR 5/4) のSL、半風化、風化細小中半角礫に頗る富む、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度1.8で疎、PH(H ₂ O) 6.7、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
オ4層	60~	半風化、風化細小中大半角礫からなる礫層、土壌を僅かに混ざる。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~18	1.0	36.5	27.6	23.2	12.7	L	2.26	0.22	10	3.9
2	18~35	0.7	36.8	26.0	21.3	15.9	CL	0.84	0.11	8	1.5
3	35~60	1.6	36.0	38.7	20.9	4.4	SL	-	-	-	-

層位	PH P		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.2	5.0	1.5	13.4	11.2	0.4	0.4	83.6	606	13.7
2	6.9	5.5	0.5	15.4	10.4	0.5	0.2	67.5	970	tr.
3	6.7	5.3	0.5	13.3	9.5	0.4	0.3	71.4	877	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては金華統、昭栄北統があるが、何れも堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 固結火成岩(流紋岩)

A-4 堆積様式 崩積

B 地形 標高240~340cmの波状性緩傾斜地

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温5.6°C、年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて、馬鈴薯、牧草、豆類等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

等高線栽培、緑作帯設置等水蝕防止対策が必要である。

F 分布 常呂郡留辺蘂町字大富の一部。

調査及び記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡略分級式
大 富 - 大 富	Ⅲ s Ⅱ t d g p f n e

② 土壌区別説明

大 富 - 大 富

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	(表	(表	(表	土	(透	(保	(自	(保	(固	(養	(置	(有	(微	(酸	障	(有	(物	(災	(増	(地	傾	(自	(傾	(人	(侵	(耐	(耐					
壤	生	産	力	可	能	性	等	級	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性		
t	d	g	p						w		f			n					i		a			s												
Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	2	1	1	Ⅰ	1	3	1	Ⅱ	2	1	1	Ⅱ	1	3	1	1	1	1	Ⅰ	1	1	Ⅰ	1	1	Ⅲ	3	-	-	Ⅱ	2	2	1
簡略分級式		Ⅲ s Ⅱ t d g p f n e																																		

A 土壌区の特徴

この土壌区は大富統に属する。作土の厚さ20cm内外で中庸、有効土層も60cm以下で中庸である。作土の土性は中粒質で粘着性中庸であるが、礫に富むため耕起碎土はやや困難である。保水性中庸、透水性追好で過湿、過干のおそれは少い。

保肥力中、磷酸固定力小で土層の塩基状態は良好である。作土は置換性苦土が少く、他の養分はおおむね存在する。下層は磷酸、加里、苦土が少い。

地形は傾斜を呈し侵蝕のおそれがある。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

畑地には牧草、飼料作物、馬鈴薯、麦類その他の作物が栽培されているが他の大部分は山林原野になっている。

C 地力保全上の問題点

等高線栽培、緑作帯設置等水蝕防止対策が必要である。加里、苦土等を増施することが望ましい。

D 分 布 常呂郡留辺薬町字大富の一部。

記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和 43 年 3 月 31 日

瑞 穂 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ15cm以内で腐植含量3~5%で、土性はCLが主である。半風化、風化細小中角礫を含む。色は10YRで彩度3、明度3のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度15前後で疎、PH(H₂O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下、土性はCLが主である。半風化、風化細小中礫に富む。色は10YRで彩度4、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富む。ち密度20前後で中、PH(H₂O)6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

オ3層は厚さ10~20cmで腐植を欠き、土性はLが主である。半風化、風化細小中角礫に頗る富む。色は10YRで彩度4、明度5~6、細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔を含む。ち密度25前後で密、PH(H₂O)5.5前後。下層との境界は波状漸変である。

オ4層は地表下おおむね50cm以下で、半風化、風化細小中大角礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 常呂郡留辺薬町瑞穂 試坑 NO. 若 5

オ1層	0~13cm	腐植を含む暗褐(10YR 3/3)のCL、半風化、風化細小中角礫を含む、発達弱度の細粒状構造、ち密度16で疎、PH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
オ2層	13~33	腐植あり灰黄褐(10YR 5/4)のCL、半風化、風化細小中角礫に富む、発達中程度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度21で中、PH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
オ3層	33~50	腐植を欠く灰黄橙(10YR 6/4)のL、半風化、風化細小中角礫に頗る富む、発達弱度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度26で密、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
オ4層	50~	半風化、風化細小中角礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分%	粒 径 組 成 %				土性	現積地重容 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~13	0.6	20.9	31.5	30.0	17.6	CL	104.0	2.52	2.19	0.22	10	3.8
2	13~33	0.3	20.4	26.5	34.6	18.5	CL	129.0	2.77	0.63	0.09	7	1.1

層位	PH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	4.7	1.3	18.5	14.3	1.0	0.2	77.3	545	8.0
2	6.1	4.5	1.5	13.5	11.4	1.6	0.1	84.4	580	tr
3	5.6	4.0	10.5	21.2	16.5	0.9	0.3	77.8	-	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては瑞穂中央統、温根湯北統、花園北統があるが、何れも堆積様式、母材が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 固結水成岩（中生層砂岩、シルト岩）

A-4 堆積様式 崩積

B 地形 標高200～240mの波状性傾斜地。

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわれて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6°C、年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

畑地には牧草、飼料作物、麦類、馬鈴薯その他の作物が栽培され、その他は山林原野になっている。

E 農業上の留意事項

等高線栽培、緑作帯の設置、被覆作物栽培等水蝕防止対策が特に必要で、有機物を施用しながら深耕することも必要である。施肥面では磷酸、加里を増施することが望ましい。

F 分布 常呂郡留辺蘂町字瑞穂の一部。

調査及び記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式
瑞 穂 - 瑞 穂	■ ts II dne

② 土壌区別説明

瑞 穂 - 瑞 穂

示性分級式 (畑)

土	表	有	表	耕	(((土	((自	((養	(((障	(災	(傾	(侵	((
壤	効	効	土	土	表	表	表	地	透	保	湿	然	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	理	地	傾	人	侵	耐	耐						
生	土	土	の	の	土	土	土	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	質	の	危	危	水	風							
産	の	の	の	の	粘	乾	乾	の	性	性	度	沃	力	力	態	の	灰	土	里	酸	要	障	害	の	傾	傾	蝕	蝕						
力	層	層	層	層	土	土	土	土	性	性	度	力	力	態	の	量	量	量	素	度	無	性	性	度	度	度	度	度						
可	厚	深	含	難	性	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	素	度	無	性	性	度	度	度	度	度						
能	さ	さ	量	易	(((((((((((((((((((((((((
性	さ	さ	量	易	(((((((((((((((((((((((((
等	さ	さ	量	易	(((((((((((((((((((((((((
級	さ	さ	量	易	(((((((((((((((((((((((((
	t	d	g	p				w			f			n					i		a		s		e									
Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅱ	—	—	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ
簡略分級式		Ⅲ t s Ⅱ d n e																																

A 土壤区の特徴

この土壤区は瑞穂統に属する。作土の厚さは15cm以内で浅く、有効土層は50cm内外で中庸である。作土の土性は中粒質で粘着性弱く耕起碎土は容易である。保水性やや小、透水良好であるが過湿、過干のおそれは少い。

保肥力中、磷酸固定力小で土層の塩基状態は良好である。作土は磷酸、加里がやや少く、下層は磷酸、加里に欠乏している。地形は傾斜が一般に急で侵蝕のおそれがある。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

畑地に利用されて部分は約半分で他は山林原野に利用されている。

C 地力保全上の問題点

等高線栽培、緑作帯設置、被覆作物栽培等水蝕の防止対策が特に必要である。有機物を施用しつつ漸次深耕すること、施肥面では磷酸、加里を増施すること等が必要と思われる。

D 分布

常呂郡留辺薬町字瑞穂の一部。

記載責任者 高尾欽彌 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

大 富 南 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ20cm内外で腐植含量5%内外、土性はL~CLである。色は7.5yRで彩度3、明度2のものが多い。粒状構造で発達程度は弱である。ち密度20前後で中、PH(H₂O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ15~20cmで腐植含量2%内外、土性はSL~Lである。半風化小中大半角礫に富む、色は7.5yRで彩度5、明度5のものが多い。細粒状構造で発達程度は中~強度で、細小孔を含む。ち密度20前後で中、PH(H₂O)5.5~6.0。下層との境界は波状漸変である。

オ3層は厚さ20~30cmで腐植を欠き、土性はLが主である。半風化小中大半角礫に富む、色は7.5yRで彩度6、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度で、細小孔を含む、ち密度

22で中、下層との境界は平坦明瞭である。

オ5層は地表下おおむね90cm以下で腐植を欠き、土性はCLが主である。半風化細小半角礫に頗る富む。色は7.5YRで彩度4、明度5のものが多い。均質連結状(盤層)、ち密度30前後で甚密である。

代表的断面形態

所在地 常呂郡置戸町 試坑 NO 北18

オ1層	0~20cm	腐植を含む黒褐(7.5YR 2/3)のCL、発達弱度の細粒状構造、ち密度20で中、PH(H ₂ O) 6.2、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
オ2層	20~40	腐植あり褐色(7.5YR 5/5)のSL、半風化小中大半角礫に富む、発達中度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度20で中、PH(H ₂ O) 5.8、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
オ3層	40~65	腐植を欠く褐色(7.5YR 5/6)のL、半風化小中大半角礫に富む、発達弱度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度22で中、調査時の湿り半乾、境界波状明瞭。
オ4層	65~90	腐植を欠く明褐(7.5YR 5/8)のSL、半風化細小浮石礫に富む、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度15で疎、調査時の湿り半湿、下層との境界は平坦明瞭。
オ5層	90~	腐植を欠く褐色(7.5YR 5/4)のCL、半風化細小半角礫に頗る富む、均質連結状(盤層)、ち密度30で甚だ密、調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~20	5.1	15.1	43.5	25.9	15.5	CL	2.94	0.32	9	5.1
2	20~40	1.4	19.3	47.3	21.2	12.2	SL	1.21	0.15	8	2.1

層位	PH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.2	5.2	0.5	21.2	16.5	0.9	0.3	77.8	714	11.6
2	5.8	4.9	0.5	17.9	10.8	0.5	0.4	40.8	1210	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては富岡統、昭栄南統があるが、富岡統とは堆積様式、母材が異り、昭栄南統とは母材が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 固結火成岩(安山岩)

A-4 堆積様式 水積(扇状堆土)

B 地形 標高340~380mの波状性傾斜地。

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわれて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6°C、年間降水量 800 mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分畑地に利用されて、馬鈴薯、麦類、牧草、豆類等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

等高線栽培、緑作帯設置等水蝕防止対策が特に必要である。有機物を施用して深耕すること、加里苦土を増施することが必要であると思われる。

F 分布 常呂郡留辺蘂町字大富の一部。

調査及び記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式
大 富 南 - 大 富 南	Ⅲ s Ⅱ t d n e

② 土壌区別説明

大 富 南 - 大 富 南

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	(表	(表	(表	土	(透	(保	(自	(保	(固	(養	(置	(有	(微	(酸	障	(有	(物	(災	(増	(地	傾	(自	(傾	(人	(侵	(耐	(耐	
壤	生	効	土	土	土	土	土	地	透	湿	然	然	層	置	効	効	効	効	障	害	害	害	冠	冠	地	自	然	為	侵	耐	耐	
産	力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
可	能	性	厚	深	難	性	性	乾	性	性	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
等	級	さ	さ	量	易	性	性	湿	性	性	度	度	力	力	力	力	力	力	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
t	d	g	p					w			f			n				i		a		s				e						
Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
簡略分級式		Ⅲ s Ⅱ t d n e																														

A 土壌区の特徴

この土壌区は大富南統に属する。作土の厚さは15~20cmで中庸、有効土層は90cm内外で中庸である。作土の土性は中粒質で粘着性やや弱く耕起碎土は容易である。保水性小、透水性良好であるが過湿、過干のおそれはない。

保肥力大、磷酸固定力中で土層の塩基状態はやや良好である。作土は置換性加里、苦土が少く、下層は磷酸、加里、苦土が少い。地形は傾斜を有し侵蝕のおそれがある。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて、馬鈴薯、牧草、麦類等の作物が栽培され、一部は山林原野になつている。

C 地力保全上の問題点

等高線栽培、緑作帯の設置、被覆作物の栽培等により水蝕防止を構ずることが特に必要である。有機物を施用し深耕すること、加里、苦土を増施すること等が必要と考えられる。

D 分 布 常呂郡留辺蘂町字大富の一部。

記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和 43 年 3 月 31 日

昭 栄 南 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ20cm内外で腐植含量6~7%、土性はCLが主である。半風化、風化細小中角礫に富む、色は10YRで彩度2、明度3のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度であつた。ち密度10以下で疎、PH(H₂O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ10~15cmで腐植含量2~7%、土性はCLが主である。半風化、風化細小中角礫に頗る富む、色は10YRで彩度3、明度4のものが多い。細塊状構造で発達程度は中度で、細小孔を含む。ち密度20前後で中、PH(H₂O)6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

オ3層は厚さ20cm内外で腐植を欠き、土性はLが主である。半風化、風化細小中半角、角礫に頗る富む、色は10YRで彩度4、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度で、細小孔に富む。ち密度20前後で中、PH(H₂O)6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

オ4層は地表下50~60cm以下で腐植を欠き、土性はLが主である。半風化、風化細小中半角礫に頗る富む、色は10YRで彩度5、明度6のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度で、細小孔に富む。ち密度20前後で中。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 常呂郡留辺蘂町字昭栄 試坑NO.北27

オ1層	0~20cm	腐植に富む黒褐(10YR 3/2)のCL、半風化、風化細小中半角礫に富む、発達弱度の粒状構造、ち密度8で疎、PH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
オ2層	20~33	腐植を含む暗褐(10YR 4/3)のCL、半風化、風化細小中半角、角礫に頗る富む、発達中度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度20で中、PH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
オ3層	33~55	腐植を欠く灰黄褐(10YR 5/4)のL、半風化、風化細小中半角、角礫に頗る富む、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度20で中、PH(H ₂ O)6.0 調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
オ4層	55~	腐植を欠く灰黄褐(10YR 6/5)のCL、半風化、風化細小中半角、角礫に頗る富む、発達弱度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度20で中、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~20	2.6	29.8	23.5	28.6	18.1	CL	4.02	0.36	11	6.9
2	20~33	2.0	19.7	28.5	30.2	21.6	CL	1.31	0.18	7	2.3
3	33~55	3.2	34.6	29.3	27.3	8.8	L	-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.1	5.2	1.3	27.9	23.0	0.8	0.4	82.4	885	11.9
2	6.1	4.8	1.0	23.1	16.4	1.0	0.2	70.9	1,000	tr
3	6.0	4.7	2.0	22.6	14.1	1.3	0.3	62.8	1,195	tr

A-2 他の土壌との関係

本統に隣接また類似する統としては平里南統、温根湯北統、留辺蘂北統等があるが、平里南統、温根湯北統とは堆積様式が異り、留辺蘂北統とは母材が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 固結火成岩（安山岩、凝灰岩）

A-4 堆積様式 水積（扇状堆土）

B 地形 標高200~280mの緩傾斜地。

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6°C、年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて豆類、ビート、麦類、馬鈴薯、牧草等が栽培されていて、一部は山林原野になつている。

E 農業上の留意事項

一部侵蝕のおそれがあるから等高線栽培、緑作帯設置等による水蝕防止が必要である。苦土、加里を増施すること、有機物を施用して漸次深耕すること等が必要である。

F 分布 常呂郡留辺蘂町字昭栄の一部。

調査及び記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
昭栄南 - 昭栄南	II tgpse

② 土壌区別説明

昭栄南 - 昭栄南

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 厚 さ	有 効 土 層 深 さ	表 土 的 礫 含 量	耕 起 土 的 難 易 性	(表 土 的 風 乾 土 的 粘 着 性)	(表 土 的 乾 湿 性)	土 透 水 性	(保 湿 性)	(潤 沢 度)	自 然 肥 沃 力	(固 定 力)	(塩 基 状 態)	養 分 含 量	(置 換 性)	(苦 土 含 量)	(加 里 含 量)	(微 酸 性)	(磷 素 度)	障 害 性	(物 理 的 障 害 性)	(災 害 性)	(増 冠 水 危 険 度)	(地 す べ り 危 険 度)	(傾 斜 危 険 度)	(自 然 傾 斜)	(人 為 傾 斜)	(侵 蝕 度)	(耐 風 蝕 性)	(耐 水 蝕 性)				
Ⅱ	d	g	p			w			f		n						i	a			s						e						
Ⅱ	I	Ⅱ	Ⅱ	2	1	1	I	1	3	1	I	1	2	1	I	1	2	1	1	1	I	1	1	I	1	Ⅱ	2	—	—	Ⅱ	2	2	1
簡 略 分 級 式		Ⅱ t g p s e																															

A 土 壤 区 の 特 徴

この土壌区は昭栄南統に属する。表土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は1m内外でやや深い。作土の土性は中粒質で粘着性弱いが礫が多いため耕起碎土はやや困難である。保水性やや小、透水性良好で、斜面上部からの水分供給が潤沢にあるため過湿、過干のおそれはない。

保肥力大、磷酸固定力中で土層の塩基状態は良好である。作土は置換性苦土がやや少く、下層は磷酸、加里が少い。地形は緩傾斜～傾斜を呈し浸蝕のおそれがある。特殊の障害性は存在しない。

B 植 生 及 び 利 用 状 況

大部分耕地に利用されて、馬鈴薯、ビート、豆類、麦類、牧草等が栽培され、一部は山林原野になっている。

C 地 力 保 全 上 の 問 題 点

等高線栽培、緑作帯の設置等により水蝕を防止することが必要である。有機物を施用して漸次深耕すること、苦土、加里を増施すること等が必要と考えられる。

D 分 布 常 呂 郡 留 辺 薬 町 字 昭 栄 の 一 部

記載責任者 高尾欽彌 (北海道立中央農業試験場)
日 付 昭 和 4 3 年 3 月 3 1 日

留 辺 薬 北 統

(1) 土 壤 統 の 概 説

A 土 壤 統 の 特 徴

A-1 断 面 の 特 徴

オ1層は厚さ15～20cmで腐植含量4～5%、土性はLが主である。未風化細小中半角、角礫に富む、色は5YRで彩度3、明度2のものが多い。粒状構造で発達程度は中度である。ち密度10～20で疎～中、PH(H₂O) 5.5～6.0。下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ15～20cmで腐植含量2%以下、土性はCLが主である。未風化細小中大角礫に頗る富む、色は5YRで彩度3、明度4のものが多い。細塊状構造で発達程度は中～強度で、細小孔を含む。ち密度19前後で中、PH(H₂O) 6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

オ3層は地表下おおむね30cm以下で、未風化小中大角礫からなる礫層。

代表的断面形態

所在地 常呂郡留辺蘂町字留辺蘂 試坑 NO.北77

才1層	0~15cm	腐植を含む暗赤褐(5YR 2/3)のL、未風化細小中半角、角礫に富む、発達中程度の粒状構造、ち密度23で中(牧草地のため堅い)、PH(H ₂ O) 5.8、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭。
才2層	15~30	腐植あり灰赤褐(5YR 4/3)のCL、未風化細小中大角礫に頗る富む、発達中程度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度19で中、PH(H ₂ O) 6.2、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
才3層	30~	未風化小中大角礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~15	1.4	27.0	28.1	30.4	14.5	L	2.67	0.24	11	4.6
2	15~30	1.4	42.1	17.2	25.1	15.6	CL	0.80	0.11	7	1.4

層位	PH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H ₂ C	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.3	4.55	2.0	23.9	16.1	1.4	0.2	67.3	828	4.9
2	6.2	4.25	1.0	24.0	16.7	2.5	0.1	69.7	889	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては金華統、昭栄南統があるが、金華統とは母材、堆積様式が異り昭栄南統とは母材が異なるので区別される。

A-3 母材 変成岩(赤色珪岩)

A-4 堆積様式 水積(扇状堆土)

B 地形 標高200~260mの緩傾斜~傾斜地

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温5.6°C、年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分は畑地に利用されて牧草、飼料作物、馬鈴薯、麦類等が栽培され、一部は山林になっている。

E 農業上の留意事項

等高線栽培、緑作帯の設置、牧草栽培等の水蝕防止対策が必要である。

有機物を施月して漸次深耕すること、燐酸、加里を増施すること等が必要と思われる。

F 分布 常呂郡留辺蘂町字留辺蘂の一部。

調査及び記載責任者 高尾欽彌(北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
留辺薬北 - 留辺薬北	Ⅲ a Ⅱ t g p n i s e

② 土壤区別説明

留 辺 薬 北 - 留 辺 薬 北

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	(表	(表	(表	土	(透	(保	(湿	自	(保	(固	土	置	有	微	酸	障	(有	(物	(理	(灾	(增	(地	(傾	(自	(傾	(人	(侵	(耐	(耐			
壤	効	効	土	土	土	土	地	透	保	湿	然	保	固	層	分	置	効	効	効	障	害	害	害	害	冠	す	自	傾	人	侵	耐	耐				
生	土	土	の	の	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	性	態	量	害	質	的	障	害	の	危	危	傾	然	為	水	風					
産	の	の	の	の	の	の	乾	性	性	度	沃	力	力	基	状	豊	灰	土	里	酸	無	性	性	險	險	傾	方	傾	蝕	蝕	蝕	性				
力	厚	深	量	易	性	性	湿	性	性	度	度	力	力	基	状	豊	灰	土	里	酸	無	性	性	險	險	傾	方	傾	蝕	蝕	蝕	性				
可	さ	さ	量	易	性	性	湿	性	性	度	度	力	力	基	状	豊	灰	土	里	酸	無	性	性	險	險	傾	方	傾	蝕	蝕	蝕	性				
能	さ	さ	量	易	性	性	湿	性	性	度	度	力	力	基	状	豊	灰	土	里	酸	無	性	性	險	險	傾	方	傾	蝕	蝕	蝕	性				
性	さ	さ	量	易	性	性	湿	性	性	度	度	力	力	基	状	豊	灰	土	里	酸	無	性	性	險	險	傾	方	傾	蝕	蝕	蝕	性				
等	さ	さ	量	易	性	性	湿	性	性	度	度	力	力	基	状	豊	灰	土	里	酸	無	性	性	險	險	傾	方	傾	蝕	蝕	蝕	性				
級	さ	さ	量	易	性	性	湿	性	性	度	度	力	力	基	状	豊	灰	土	里	酸	無	性	性	險	險	傾	方	傾	蝕	蝕	蝕	性				
	t	d	g	p			w			f			n							i		a		s												
Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	2	1	1	(Ⅱ)	1	3	(2)	I	1	2	1	Ⅱ	1	1	2	2	1	2	Ⅱ	1	2	Ⅱ	1	1	Ⅱ	2	-	-	H	2	2	1
簡略分級式		Ⅲ d Ⅱ t g p n i s e																																		

A 土壤区の特徴

この土壤区は留辺薬北統に属する。作土の厚さは15~20cmで中庸、有効土層は30cm内外で浅い、作土の土性は中粒質で粘着性弱いが、堅質な角礫に富むため耕起碎土はやや困難である。保水性小、透水良好で礫層極く浅いため過干のおそれがある。

保肥力大、磷酸固定力中で土層の塩基状態は良好である。作土は有効態磷酸、置換性加里が少く、下層は磷酸、加里に欠乏している。地形は緩傾斜で一部傾斜地があり侵蝕のおそれがある。礫層極く浅く物理的障害を受ける。

B 植生及び利用状況

大部分は畑地に利用されて牧草、飼料作物、馬鈴薯、麦類等が栽培され一部は山林になっている。

C 地力保全上の問題点

等高線栽培、緑作帯の設置、牧草栽培等の水蝕防止対策が必要であり、有機物を施用して漸次深耕すること、磷酸、加里を増施する等も必要事項となる。

F 分 布

常呂郡留辺薬町字留辺薬の一部。

記載責任者 高尾欽彌 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和 43 年 3 月 31 日

金 華 西 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ15~20cmで腐植含量6~8%、土性はCLが主である。未風化細小中角礫に富む色は7.5YRで採度3、明度3のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度10~15で疎、PH(H₂O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ10~20cmで腐植含量4%内外、土性はCL~Cである。未風化細小中角礫を含む色は7.5YRで彩度2、明度3のものが多い。細塊状構造で発達程度は中~強で、一部柱状を呈し細小孔を含む。ち密度19前後で中、PH(H₂O)6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

オ3層は地表下30~40cm以下で、未風化小中大角礫からなる礫で、CLを呈する土壌を礫間に混ざる。

代表的断面形態

所在地 常呂郡留辺蘂町字金華 試坑NO北31

オ1層	0~17	腐植に富む暗褐(7.5YR 3/3)のCL、未風化細小中角礫に富む、発達弱度の粒状構造、ち密度13で疎、PH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
オ2層	17~30	腐植を含む、黒褐(7.5YR 3/2)のCL、未風化細小中角礫を含む、発達中度の細塊状構造、細小孔含む、ち密度19で中、PH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り湿、境界波状漸変。
オ3層	30~	未風化小中大角礫からなる礫層、礫間にCLを呈する土壌を含む。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~17	1.6	20.7	28.1	28.7	22.5	CL	4.12	0.38	11	7.1
2	17~30	0.8	7.1	48.5	23.9	20.5	CL	2.47	0.32	8	4.3

層位	PH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	4.9	1.3	24.8	17.1	1.3	0.2	69.0	836	6.1
2	6.0	4.8	1.3	29.6	16.8	4.0	0.3	56.8	1,170	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接また類似する統としては留辺蘂北統、大和北統があるが、何れも母材が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 固結火成岩(玄武岩)

A-4 堆積様式 水積(扇状堆積)

B 地形 標高300m前後の波状性緩傾斜~傾斜地。

C 気候

ている。

C 地力保全上の問題点

等高線栽培、緑作帯の設置等の水蝕防止対策が特に必要である。 燐酸、加里を増施することが望ましい。

D 分 布 常呂郡留辺蘂町字金華の一部。

記載責任者 高尾欽壽（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭 和 43 年 3 月 31 日

大 和 北 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ15～20cmで腐植含量5%内外、土性はCLが主である。 半風化風化細小中大半角角礫に頗る富む、色は10YRで彩度3、明度4のものが多い。 粒状構造で発達程度は弱度である。 ち密度10前後で疎、PH(H₂O)6.0前後。 下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ20～30cmで腐植含量2%以下、土性はCLが主である。 半風化、風化細小中半角角礫に頗る富む、色は10YRで彩度4、明度5のものが多い。 細塊状構造で発達程度は中～強度で、細小孔に富む。 ち密度20前後で中、PH(H₂O)6.0前後。 下層との境界は波状漸変である。

オ3層は厚さ10～20cmで腐植を欠き、土性はLが主である。 半風化、風化細小中半角、角礫に頗る富む。 色は10YRで彩度5、明度5のものが多い。 細塊状構造で発達程度は中度で、細小孔に富む。 ち密度15～18で疎、下層との境界は波状漸変である。

オ4層は地表下50～60cm以下で、半風化、風化細小中大半角、角礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 常呂郡留辺蘂町字川北、試坑 NO温 1

オ1層	0～17cm	腐植に富む灰黄褐(10YR ⁴ / ₃)のCL、半風化、風化細小中大半角、角礫に頗る富む、発達弱度の粒状構造、ち密度10で疎、PH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
オ2層	17～40	腐植あり灰黄褐(10YR ⁵ / ₄)のCL、半風化、風化細小中半角、角礫に頗る富む、発達強度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度20で中、PH(H ₂ O)6.0 調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
オ3層	40～55	腐植を欠く黄褐(10YR ⁵ / ₆)のL、半風化、風化細小中大半角、角礫に頗る富む、発達中度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度18で疎、下層との境界は波状漸変である。
オ4層	55～	半風化、風化細小中大半角、角礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0 ~ 17	1.0	16.8	37.0	29.5	16.7	CL	3.12	0.32	10	5.4
2	17 ~ 40	1.2	18.7	30.5	35.7	15.1	CL	0.83	0.11	9	1.4

層位	PH		置換酸度 %	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸吸収係数	有効土燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.1	5.1	1.0	23.1	11.6	0.2	1.0	50.2	6.26	14.5
2	6.8	4.6	0.6	15.8	12.8	0.9	0.8	81.0	6.26	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては川北統、平里南統、昭栄南統等があるが、川北統、平里南統とは推積様式が異り、昭栄統とは同じ推積様式であるが母材が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 固結火成岩（流紋岩質）

A-4 堆積様式 水積（扇状堆土）

B 地形 標高400~460mの波状性傾斜地。

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6°C、年間降水量 800 mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて牧草その他の飼料作物、馬鈴薯、ビート、麦類等が栽培されている。一部は山林原野になつている。

E 農業上の留意事項

等高線栽培、緑作帯の設置、牧草栽培等の水蝕防止が必要で、また巨礫、巨岩が地表に出現しているところは除礫が必要である。苦土入り肥料を施用することが望ましい。

F 分布 常呂郡留辺蘂町字川北の一部。

調査及び記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
大和北 - 大和北	III g II tdpse

② 土壌区別説明

大和北 - 大和北

示性分級式 (畑)

土表有表耕	(表表表)	土	(透保)	(自保)	(養置)	(有微)	(障有)	(災增)	(傾地)	(傾自)	(傾人)	(侵耐)	(耐耐)
壤生土産力可能性等級	効土の層の厚さ	土の粘着性	地水の潤肥	然肥定塩	層分換の石苦加	効態量	害物理的害物質の障害無性	害の危険	すべりの危険	然斜の傾方	為傾	水蝕	風蝕
t d g p	g p	w	f	n	i	a	s	e					
Ⅱ Ⅱ Ⅲ Ⅱ 2 - -	Ⅱ Ⅱ Ⅲ Ⅱ 2 - -	Ⅰ 1 3 1	Ⅰ 1 1 1	Ⅰ 1 3 1 1 1 1	Ⅰ 1 1 1	Ⅰ 1 1	Ⅰ 1 1	Ⅱ 2 - -	Ⅱ 2 2 1				
簡略分級式 Ⅲ g Ⅱ t d p s e													

A 土壌区の特徴

この土壌区は大和北統に属する。作土の厚さは15~20cmで中庸、有効土層も50~60cmで中庸である。作土の土性は中粒質で粘着性中~小であるが礫に頗る富むため耕起碎土はやや困難である。保水性やや小、透水良好で過湿、過干のおそれは少ない。

肥力大、磷酸固定力小で土層の塩基状態は良好である。作土は置換性苦土少く、下層は磷酸が少く、苦土がやや少い。

地形は緩傾斜~傾斜で侵蝕のおそれがある。特殊の障害性はないが、地表から巨礫、巨岩が出現して農耕上の支障になるところがある。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて牧草その他の飼料作物、馬鈴薯、ビート、麦類等が栽培され、一部は山林原野になつている。

C 地力保全上の問題点

等高線栽培、緑作帯の設置、牧草栽培等の水蝕防止対策が必要である。また巨岩、巨礫の存在するところは除礫が必要である。堆厩肥を施用して漸次深耕することが望ましい。

D 分布 常呂郡留辺薬町字川北の一部。

記載責任者 高尾欽彌 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

瑞 穂 東 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ14cm内外で腐植含量4~5%、土性はCLが主である。半風化、風化細小半角礫を含む、色は10YRで彩度2、明度3のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度10~15で疎、PH(H₂O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

オ2層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下、土性はCLが主である。半風化、風細小中半角、角礫に富む。色は10YRで彩度4、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度で、細小孔

に富む。ち密度 2.0 ~ 2.5 で中、PH (H₂O) 5.8 前後。 下層との境界は波状漸変。

オ3層は地表下 30 ~ 40 cm 以下で、半風化、風化小中半角、角礫からなる礫層。

代表的断面形態

所在地 常呂郡留辺蘂町字瑞穂 試坑 NO 苦 28

オ1層	0 ~ 14 cm	腐植を含む暗褐 (10YR 3/3) の CL、半風化、風化細小半角礫を含む、発達弱度の粒状構造、ち密度 1.2 で疎、PH (H ₂ O) 5.9、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
オ2層	14 ~ 35	腐植あり灰黄褐 (10YR 5/4) の CL、半風化、風化小中半角、角礫に富む、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度 2.5 で密、PH (H ₂ O) 5.8、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
オ3層	35 ~	半風化、風化細小中半角、角礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0 ~ 14	1.2	19.5	37.2	26.0	17.3	CL	2.45	0.23	11	4.2
2	14 ~ 35	0.3	19.3	40.8	24.9	15.0	CL	0.61	0.08	8	0.9

層位	PH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	4.7	1.3	21.4	17.9	2.5	0.4	83.6	687	23.9
2	5.8	4.3	3.8	18.1	7.9	8.4	0.2	43.4	720	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては瑞穂統、瑞穂中央統、大和北統があるが、瑞穂統、瑞穂中央統とは堆積様式が異り、大和北統と同一堆積様式であるが母材が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 固結水成岩 (砂岩)

A-4 堆積様式 水積 (扇状堆土)

B 地形 緩傾斜を呈する扇状地

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわれて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6°C、年間降水量 800 mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、馬鈴薯、ビート、豆類、麦類が栽培されている。

E 農業上の留意事項

等高線栽培を実施して水蝕を防止すること、有機物を施用して漸次深耕することが必要である。

F 分布 常呂郡留辺蘂町字瑞穂の一部。

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式
瑞 穂 東 - 瑞 穂 東	Ⅲ t d Ⅱ i s e

② 土壌区別説明

瑞 穂 東 - 瑞 穂 東

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	有 効 土 層 厚 さ	表 土 粒 子 容 易 性	耕 起 碎 土 容 易 性	(表 土 の 粘 着 性)	(表 土 の 乾 硬 性)	土 地 乾 湿 性	(透 水 性)	(保 水 性)	自 然 肥 沃 度	(固 肥 力)	(定 肥 力)	(塩 基 状 態)	(養 分 含 量)	(置 換 性)	(有 機 質 含 量)	(微 酸 性)	(障 害 有 無)	(物 理 的 障 害)	(災 害 危 險 性)	(地 冠 水 危 險 性)	(傾 斜 危 險 性)	(自 然 傾 斜)	(人 為 傾 斜)	(侵 蝕 危 險 性)	(耐 風 蝕 性)	(耐 水 蝕 性)			
t d	g p					w		f				n					i	a		s				e					
Ⅲ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	2	2	1	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	2	—	—	Ⅱ	1	2	1
簡略分級式		Ⅲ t d Ⅱ i s e																											

A 土壌区の特徴

この土壌区は瑞穂東統に属する。作土の厚さは15cm以内で浅く、有効土層も30~40cmで浅い。作土の土性は中粒質で粘着性弱く耕起碎土は容易である。保水性中庸、透水性良好で過湿、過干のおそれは少い。

保肥力大、磷酸固定力小で土層の塩基状態は良好である。作土の養分含量は比較的存在する。下層は磷酸、加里が少い。緩傾斜を呈し侵蝕のおそれがある。礫層浅く物理的障害を受ける。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、馬鈴薯、ビート、豆類、麦類が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

等高線栽培により水蝕を防止すること、有機物を施用して漸次深耕することが必要である。

D 分 布

常呂郡留辺蘂町字瑞穂の一部

記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和 43 年 3 月 31 日

3. 保全対策地区区分及び説明

1) 保全対策地区の説明

土壌断面の特徴及び対策等を考慮して次の保全対策地区を設定した。

水 田

保全対策地区名	該当土壌区	面積(ha)	主な特徴	主要な保全対策
瑞穂中央	瑞穂中央-瑞穂中央 松 山-松 山	161	磷酸、加里が少い	施肥合理化
平里南	若佐中央-若佐中央 平里南-平里南 栄 - 栄	306	地下排水が悪い 施肥合理化	排 水 施肥合理化

畑

保全対策地区名	該当土壌区	面積(ha)	主な特徴	重要な保全対策
温根湯	厚 和-厚 和 温根湯-温根湯 開 拓-開 拓	284	水蝕が発生する 腐植含量少く、作土層が 一般に浅い。 磷酸、加里がやや少い	保全耕作 有機物施用 深 耕 施肥合理化
川 北	富 丘-富 丘 温根湯北-温根湯北 川 北-川 北 花園北 花園北	1,159	下層堅密 一時的過湿のおそれがある 水蝕が発生する 腐植がやや少い 作土層が浅い	心土破碎 暗渠排水 保全耕作 有機物施用、深耕
昭栄中央	昭栄中央-昭栄中央 瑞穂南-瑞穂南	501	磷酸、加里が少い 腐植含量少く、作土がやや 浅い 一部は過湿のおそれがある	施用合理化 有機物施用と深耕 一部排水
厚和南	厚和南-厚和南 松山西-松山西	94	過湿のおそれがある やや酸性を呈する 磷酸、加里がやや少い	排 水 酸性矯正 施肥合理化
昭栄北	昭栄北-昭栄北 金 華-金 華 厚和中央-厚和中央 端野東-端野東 左呂間中央-左呂間中央	705	腐植含量少い 磷酸、加里がやや少い 礫質地散在する	有機物施用と深耕 施肥合理化 一部客土
厚和北	厚和北-厚和北 シヨマツ沢-シヨマツ沢	272	腐植含量少い、礫質地散在 磷酸、加里が少く、養分が 流亡し易い	有機物施用 一部客土 施肥合理化

瑞 穂	富丘 西-富丘 西 豊 金-豊 金 大 富-大 富 瑞 穂-瑞 穂	295	水蝕が発生する 腐植含量が少い 作土が一般にやや浅い 巨大礫が散在する	保全耕作 有機物施用 深 耕 一部除礫
昭栄南	昭栄南-昭栄南	180	腐植含量少い、作土がやや浅い 水蝕が発生する	有機物施用と深耕 保全耕作
大和北	大富南-大富南 留辺薬北-留辺薬北 金華西-金華西 大和北-大和北 瑞穂東-瑞穂東	115	腐植含量が少い 水蝕が発生する 巨大礫が散在する	有機物施用、深耕 保全耕作 一部除礫

2) 保全対策地区別説明

水 田

< 瑞穂中央保全対策地区 >

(1) 分布状況

都市町村名	水田面積(ha)	備 考(該当土壌区)
常呂郡留辺薬町	161	瑞穂中央-瑞穂中央、松山-松山

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

礫層が比較的浅く、透水のやや良い水田土壌である。磷酸、加里がやや少い。

この地帯は稲作限界地帯に位置し、初夏、盛夏にしばしば低温に見まわれ、初期生育の遅延或は減数分裂期に被害をうけ、更に初霜が早く襲来する等気象的災害が大きい。

② 営農の方向、その他

安全確収と経営経済の安定が特に必要であり、水稻単作のみでなく他の作目や畜産の加味が必要である。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の種類・型式・数量	備 考
施肥合理化	瑞穂中央-瑞穂中央 松 山-松 山 161ha	磷酸、加里の増施	熔成磷肥の併用	指 導

② そ の 他

気象的災害をうける可能性の強い年は品種の選定、健苗の育成、初期生育促進に十分な配慮が必要で

ある。

区画拡大実施の場合は礫層が浅く、下層の土性が粗いから表土処理を行う方が安全である。

<平里南保全対策地区>

(1) 分布状況

郡市町村名	水田面積(ha)	備考(該当土壌区)
常呂郡留辺蘂町	306	若佐中央-若佐中央、平里南-平里南、栄-栄

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

地下水位がやや高く排水やや不良な水田土壌である。 磷酸、加里がやや少く、窒素が遅効きの傾向を示すと思われる。

稲作限界地帯に位置し、初夏、盛夏にしばしば低温に見まわられて初期生育の遅延、減数分裂期に障害をうけ、更に初霜が早く襲来する等気象的災害が大きい。

② 営農の方向、その他

安全確収と経営経済の安定が特に必要であり、水稻単作のみでなく他の作目や畜産の加味が必要であろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対象資材及び機械器具の種類・型式・数量等	備考
排水	若佐中央-若佐中央 平里南-平里南 栄-栄 306ha	暗渠、明渠排水の完備	工事費の助成	
施肥合理化	同上	磷酸、加里の増施 窒素肥料の表層施肥 と施肥量の調節	熔成磷肥の併用、 指導	

② その他

気象的災害を強くうけるおそれのある年は特に品種の選定、健苗育成、初期生育の促進等に十分な配慮が必要である。

区画拡大実施の場合、強グライ層が露出した場合は当初生育収量が低下するから、窒素肥料の追肥、磷酸の増施等十分な施肥技術が重要となる。 従つてこのことを充分配慮するならば表土処理を行わなくともよいことになるであろう。

畑

<温根湯保全対策地区>

郡市町村名	面積(ha)	備考(該当土壌区)
常呂郡留辺蘂町	284	厚和-厚和、温根湯-温根湯、開拓-開拓

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

軽しような火山性土壌で、燐酸、加里が少くかつ塩基が流亡し易い性状を有する。腐植含量やや中庸であるが作土層が一般にやや浅い。

地形は波状性傾斜～緩傾斜を呈し土壌の耐侵蝕性が乏しいため水蝕が発生する。大雪山系に近づく本町奥地はやや粗粒な火山灰から構成されている。

② 営農の方向、その他

水蝕防止、有機物施用が重要事項となるから、これらを充分加味した経営が望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び耐象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類・型式・数量等	備考
保全耕作	厚和-厚和 温根湯-温根湯 開拓-開拓 284ha	等高線栽培 緑作帯の設置 牧草作付	指導	
有機物施用	同上	堆厩肥施用 緑肥作物の栽培	指導 家畜の導入	畜産の振興 助成
深耕	同上	有機物を施用して漸次深耕	指導	
施肥合理化	同上	燐酸、加里の増施 ピートに対する硼素の施用	熔成燐肥の併用	

<川北保全対策地区>

(1) 分布状況

郡市町村名	面積(ha)	備考(該当土壌区)
常呂郡留辺蘂町	1159	富丘-富丘・温根湯北-温根湯北・川北-川北 花園北-花園北

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

台地上に分布し、凝灰質、流紋岩質その他を母材とする下層堅密な土壌で、多くは堅密層上部に鉄銹を有する。これは堅密層によつて透水が妨げられ春季融雪融凍時や降雨時には一時的に停滞水を生じ排水不良となる場合が多い。しかし崖垂の近辺や斜面ではその程度が軽く植生に大なる影響を及ぼさないところも存在する。

② 営農の方向、その他

現在穀穀、混同経営が行われているが、水蝕防止、有機物施用等の対策と気象的条件がやや悪く作物の収量が比較的低いこと等から混同経営もしくは主畜経営へ向うものと思われる。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
心土破碎	富丘-富丘 温根湯北-温根湯北 川北-川北 花園北-花園北 1159ha	50~60cm まで心土破碎	大型機械 事業費の助成	大部分は暗渠排水と併行実施することが望ましい
排水	同上	暗渠排水の完備	素焼土管また塩化ビニールパイプ 事業費の助成	
保全耕作	同上	等高線栽培 緑作帯の設置	指導	
有機物施用 深耕	同上	堆肥施用、緑肥作物栽培 有機物を施用して漸次深耕	家畜の導入 指導	畜産の振興 助成

<昭栄中央保全対策地区>

(1) 分布状況

郡市町村名	面積(ha)	備考 (該当土壌区)
常呂郡留辺蘂町	501	昭栄中央-昭栄中央、瑞穂南-瑞穂南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

無加川及び佐呂間別川流域に分布する沖積土壌で、礫層おおむね50cm以下で土性は中粒質から細粒質、凝灰質またはシルト岩風化物を母材とする地味中庸～やや良好な土壌である。一般に過湿、過干のおそれはないが、局部的に排水不良を呈するところが存在する。 磷酸、加里がやや少い傾向を有し、一般に作土層がやや浅い。

② 営農の方向、その他

主とし穀菽経営が多く一部混同経営が為されている。 面積狭少であり、その拡大には地理的に至難な面が多いから、経営は集約化の方向に向かわざるを得ないであろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
施肥合理化	昭栄中央-昭栄中央 瑞穂南-瑞穂南 501ha	磷酸・加里の増施	熔成磷肥・トーマス磷肥等の併用	

有機物施用 と深耕	同	上	有機物を施用しながら漸 次深耕	指 導	
一部排水	同	上	局所的に存在する排水不 良地は明渠または暗渠排 水	工事費の助成	

< 厚和南保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積(ha)	備 考 (該当土壌区)
常呂郡留辺蘂町	94	厚和南-厚和南、 松山西-松山西、

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

無加川上流域並びに支流域に分布する新しい沖積土で礫層が浅い粗粒質な土壌であるが地下水位がやや高いため過湿のおそれがある。 やや酸性を呈し、 燐酸、 加里が少ない傾向を有する。

② 営農の方向、その他

穀菽経営、混同経営が行われているが土地利用度がやや低く経営面積の拡大には困難性が伴うが、家畜の導入等を図り経営の安定化が目途となるであろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び 対象面積	実 施 方 法	対策資材及び機械器具 の種類、型式、数量等	備 考
排 水	厚和南-厚和南 松山西-松山西 94ha	明渠、暗渠排水の完備	素焼土管、塩化ビニール管工事費の助成	
酸性矯正	同 上	炭カルの施用 10a	指導	
施肥合理化	同 上	燐酸、加里の増施	熔成燐肥の併用 指導	

< 昭栄北保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積(ha)	備 考 (該当土壌区)
常呂郡留辺蘂町	705	昭栄北-昭栄北、 金華-金華、 厚和中央-厚和中央、 端野東-端野東、 佐呂間中央-佐呂間中央

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

無加川、常呂川及びその支流並びに佐呂間別川の各流域に分布する比較的新しい沖積土で、一般に礫層浅く土性は粗粒質～中粒質で透水良好な土壌である。腐植含量少く、磷酸、加里がやや少い。局部的に礫質地が存在しかかるところは過干のおそれがある。

② 営農の方向、その他

穀菽経営が主として行われ、玉ねぎその他の蔬菜等が栽培されているが、今後は更に集約的な方向がとられると思われる。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
有機物施用	昭栄北-昭栄北 金華-金華 厚和中央-厚和中央 端野東-端野東 佐呂間中央-佐呂間中央 705ha	堆肥の施用 緑肥作物の栽培	指 導	
深耕	同 上	有機物を施用して漸次深耕	指 導	
施肥合理化	同 上	磷酸、加里の増肥 緩効性窒素肥料の施用検討	指 導	
一部客土	同 上	局所的に存在する礫質地や礫地は埴質土の客入	指 導	

< 厚和北保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積(ha)	備考 (該当土壌区)
常呂郡留辺蘂町	272	厚和北-厚和北、シヨマツブ沢-シヨマツブ沢

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

無加川上流及びその支流流域に分布する新しい沖積土で粗粒質で礫層が極く浅い。所々に礫質地が分布し、かかるところは過干のおそれがある。腐植含量が低く磷酸、加里が少い。

② 営農の方向、その他

面積狭少な上流域の沖積土で土地利用度低く、穀菽経営が行われているが、経営面積の拡大は立地条件が悪く困難性を伴い、地理的条件もよくなき経営発展の要素は比較的少い。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
有機物施用	厚和北-厚和北 シヨマツプ沢-シヨマツプ沢 272ha	堆厩肥の施用 緑肥作物の栽培	指 導	
施肥合理化	同 上	磷酸、加里の増施 緩効性窒素の併用	指 導	
一部客土	同 上	礫質地や礫地には埴 質土の客入、有機物 の投入	指 導	

< 瑞穂保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積(ha)	備 考 (該当土壌区)
常呂郡留辺蘂町	295	富丘西-富丘西、 豊金-豊金、 大富-大富、 瑞穂-瑞穂

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

安山岩、流紋岩、シルト岩等よりなる崩積土で、地表から半角、角礫に富み、下層に向う程礫含量を増して礫層に達する場合が多い。このため透水良好であるが、過干に陥ることは比較的少ない。腐植含量中庸もしくはやや少く、磷酸、加里がやや少ない傾向を有する。傾斜～緩傾斜地が多く侵蝕のおそれが多い。

② 営農の方向、その他

混同或は穀菽経営が行われているが、水蝕防止、有機物施用を主体とした経営が望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
保全耕作	富丘西-富丘西 豊金-豊金 大富-大富 瑞穂-瑞穂 295ha	等高線栽培 緑作帯の設置 牧草作付	指 導 家畜の導入推進	畜産の振興 助成
有機物施用	同 上	堆厩肥施用 緑肥作物の栽培	指 導	

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
深耕	同上	有機物を施用して漸次深耕する	指導	
一部除礫	同上	部分的に巨大礫が存在するところは除礫	指導	

<昭栄南保全対策地区>

(1) 分布状況

都市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
常呂郡留辺蘂町	180	昭栄南 - 昭栄南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

安山岩、凝灰岩を母材とする扇状堆土で、表層から半角礫に富み、50cm以下は礫層になっている透水良好な土壌であるが、下部は常に湿分を保ち過干のおそれはない。土性中粒質で地味は比較的良好の方であるが、緩傾斜～傾斜を呈し、水蝕発生のおそれがある。

② 営農の方向、その他

穀菽経営、混同経営が行われている。水蝕防止と有機物施用を経営に加味して行くべきであろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
有機物施用と深耕	昭栄南 - 昭栄南 180ha	堆厩肥、緑肥を施用しながら漸次深耕	指導	
保全耕作	同上	等高線栽培 牧草作付	指導 家畜の導入推進	畜産の振興助成

<大和北保全対策地区>

(1) 分布状況

都市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
常呂郡留辺蘂町	115	大富南 - 大富南、 大和北 - 大和北、 留辺蘂北、金華西 - 金華西、 瑞穂東 - 瑞穂東

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

流紋岩、玄武岩、砂岩、珪岩等を夫々母材とした扇状堆土で地表から半角礫に富み、30～50cmで礫層が浅いため透水良好であるが過干のおそれは比較的少い。腐植がやや少く作土が一般に浅い。

② 営農の方向、その他

一般に混同経営が行われているが、水蝕防止、有機物施用を重点的に経営に加味することが必要であろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
有機物施用と深耕	大富南-大富南 留辺薬北-留辺薬北 金華西-金華西 大和北-大和北 瑞穂東-瑞穂東 115ha	堆厩肥、緑肥を施用しながら漸次深耕する	指 導	
保全耕作	同 上	等高線栽培 緑作帯設置	指 導	
一部除礫	同 上	巨大礫の存在により農耕上支障を来すところは除礫が必要		

4. 調査成績一覧表

1) 土壌分析成績

(水田)

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ cm	理 学 性											
					礫 (風乾物中) %	風乾 細土中		細土無機物中					土 性	現地における 100cc 溶中		
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc
瑞穂中央 地保全対策区	瑞穂中央	若 21	1	0~22		4.4	4.1	6.5	21.3	27.8	44.3	27.9	LiC			
			2	22~35		3.5	1.1	27.0	35.3	62.3	20.2	17.5	CL			
平里南保全対策地区	若佐中央	若 26 (佐呂間)	1	0~12		2.6	4.1	7.0	20.9	27.9	37.7	34.4	LiC			
			2	12~30		2.1	1.7	3.6	11.8	15.4	43.4	41.2	LiC			
			3	30~43		0.7	-	2.2	8.7	10.9	51.0	38.1	SiC			
	平里南	温 20 (北見水田)	1	0~20		1.4	4.6	19.3	45.7	65.0	18.6	17.4	SCL			
2			20~35		2.0	4.0	8.4	35.1	43.5	32.7	23.8	CL				
瑞穂中央 地保全対策区	松山	温 23c (北見水田)	1	0~16		1.8	6.4	5.1	31.9	37.0	32.0	31.0	LiC			
			2	16~30		2.1	1.9	3.9	18.3	22.2	42.2	35.6	LiC			
平里南保全対策地区	栄	若 26B (佐呂間)	1	0~18		3.7	6.6	2.1	20.1	22.2	37.3	40.5	LiC			
			2	18~35		4.0	2.5	1.5	6.5	8.0	27.6	64.4	H C			
			3	35~60		2.0	-	2.3	14.9	17.2	44.2	38.6	LiC			
			4	60~		1.6	-	3.2	21.8	25.0	41.6	33.4	LiC			

理学性		化 学 性																	
		P H		置換酸度 Y1	有 機 物			塩基置換容量 ME/100g	置換性塩基 mg/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	乾土効果	30°C NH ₃ -N 発生量 mg/100g		有効態 mg/100g		遊離酸化鉄 %
		H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O				乾土	湿土	P ₂ O ₅	N	
		7.2	58	1.0	242	0.27	9	25.2	707.7	21.0	12.5	100	777				23.4		
		6.1	4.7	1.8	0.63	0.09	7	13.7	272.5	17.7	6.2	70.8	624				2.4		
		5.5	4.3	7.0	240	0.24	10	21.8	275.6	43.7	16.3	45.0	1030				7.4		
		5.1	4.1	25.8	0.96	0.10	10	16.8	138.8	38.3	10.6	29.8	1020				tr		
		5.0	3.9	40.3	-	-	-	19.6	283.8	104.8	8.6	51.5	929				tr		
		5.7	5.3	1.0	267	0.27	10	23.2	283.2	34.9	9.9	43.5	1,415	6.5	116	51	12.2	11.6	0.67
		6.0	5.3	1.0	228	0.24	9	28.6	294.1	70.4	6.6	36.7	894	8.9	8.9	-	3.9	8.9	0.64
		5.9	5.4	0.7	3.73	0.38	10	36.4	550.4	126.1	10.8	53.8	1,100	15.1	25.1	90	15.1	25.1	0.8
		6.6	5.9	0.2	1.09	0.15	7	4.12	626.1	167.0	35.8	54.1	1,205	37	56	15	3.7	56	1.3
		5.8	5.3	1.0	381	0.38	10	32.8	367.3	81.0	11.9	39.9	1,120	136	206	7.0	7.1	20.6	1.22
		5.5	4.4	22.1	1.45	0.23	6	4.18	379.9	366.5	13.9	32.4	1,475	0	14	14	4.6	14	1.97
		5.1	4.2	12.0	-	-	-	29.9	243.1	133.7	6.7	29.0	938	-	-	-	tr	-	-
		5.7	4.9	2.0	-	-	-	32.4	320.5	248.2	8.2	35.3	1,120	-	-	-	tr	-	-

(畑)

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ cm	理 学 性										現地における 100g 溶 中		
					礫 (風乾物中) %	風 乾 細 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %					
温根湯保全対策地区	厚	北 富 4	1	0~15		1.7	4.1	21.8	368	58.6	21.3	20.1	C L				
			2	15~35		3.7	21	215	38.0	59.5	27.3	13.2	L				
	和	北 27	1	0~20		26	69	298	235	53.3	286	18.1	C L				
			2	20~33		-	-	19.7	285	48.2	30.2	21.6	C L				
			3	33~55		32	-	346	29.3	63.9	27.3	8.8	L				
	開 拓	開 11	1	0~20		4.9	11.1	85	43.8	52.3	37.9	9.8	L				
			2	20~35		6.8	6.3	104	29.0	39.4	39.1	21.5	C L				
			3	35~60		5.2	2.4	7.0	21.0	285	31.2	40.4	LiC				
	温根湯	温 3B	1	0~17		29	5.0	162	41.9	58.1	216	20.3	C L	93.5	37.9	22.1	
			2	17~30		3.6	2.2	223	44.7	67.0	165	165	SCL	116.9	41.6	31.9	
川北保全対策地区	富 岡	北 5	1	0~22		1.9	5.6	10.7	40.2	50.9	26.5	22.6	C L				
			2	22~42		1.1	1.4	19.0	32.9	51.9	22.5	25.6	LiC				
			3	42~65		0.8	-	18.9	38.6	57.5	26.2	16.3	C L				
	温根湯北	温 9	1	0~15		1.0	3.5	18.8	33.8	52.6	24.2	23.2	C L	9.65	38.0	19.5	
			2	15~35		2.3	1.9	21.0	28.8	49.8	25.5	24.7	C L	122.7	46.2	25.8	
			3	35~		1.2	-	17.5	35.1	52.6	31.3	16.1	C L	-	-	-	
	川 北	温 8	1	0~18		2.4	3.8	12.1	28.3	40.4	30.6	29.0	LiC				
2			18~35		1.7	1.9	12.3	13.5	25.8	34.9	39.3	LiC					
川北保全対策地区	花 園 北	若 9	1	0~18		1.5	6.0	11.6	33.2	44.8	31.0	24.2	C L	9.14	38.1	29.4	
			2	18~32		3.4	0.8	16.4	31.5	47.9	29.3	22.8	C L	129.0	50.7	32.8	
			3	32~65		6.6	-	11.3	22.3	33.6	30.5	35.9	LiC	147.4	57.1	32.9	
			4	65~		7.4	-	17.8	27.3	45.1	27.3	27.6	LiC				
昭栄中央保全対策地区	昭 栄 中 央	北 42	1	0~18		2.9	2.2	7.2	32.8	40.0	32.3	27.7	LiC	94.3	36.4	14.6	
			2	18~38		1.2	1.6	1.7	46.5	48.2	31.5	20.3	C L	103.2	42.5	30.0	
			3	38~65		1.9		3.0	55.9	58.9	25.5	15.6	C L	103.9	38.9	34.6	

理學性		化學性																	
空氣容積 cc	孔隙率 %	PH		置換酸 度 Y ₁	有機物			鹽置換 容 基量 Me ₂ 100g	置換性鹽基 mg/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 收係 數	乾土 效 果	30°C NH ₃ -N 發生量 mg/100g		有效態 mg/100g		遊離 酸 化 鐵 %
		H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C / N		CaO	MgO	K ₂ O				乾 土	濕 土	P ₂ O ₅	N	
		65	55	0.8	238	0.24	10	19.9	489.3	12.7	13.9	87.9	836				8.1		
		65	54	0.8	1.23	0.14	9	20.9	470.5	5.0	26.9	80.3	1080				17.4		
		6.1	5.2	1.3	402	0.36	11	27.9	644.6	15.3	17.7	82.4	885				11.9		
		6.1	4.8	1.0	-	-	-						1000				tr		
		6.0	4.7	2.0	-	-	-	22.6	396.2	25.8	12.9	62.4	1195				tr		
		4.7	4.3	5.00	6.44	0.38	17	28.4	285.6	34.0	32.8	35.9	848				11.6		
		5.3	4.3	5.70	3.65	0.27	14	21.3	103.6	12.0	27.4	17.3	1618				0.8		
		5.9	5.1	0.70	1.39	0.10	14	10.3	47.6	14.0	15.9	1.65	1271				tr		
40.0		6.7	5.7	0.6	2.87	0.29	10	21.7	560.2	10.1	34.1	92.1	659				9.5		
26.5		5.7	5.4	0.8	1.29	0.16	9	19.8	206.1	5.0	54.2	37.3	1145				tr		
		5.7	4.7	1.8	3.28	0.30	11	19.2	291.3	10.1	7.7	54.1	816				5.7		
		5.3	4.2	6.5	0.80	0.10	8	15.1	169.4	23.0	12.9	40.0	868				2.4		
		5.9	4.3	2.5	-	-	-	12.7	180.6	43.3	23.5	50.3	545				tr		
42.5		5.6	4.5	1.3	2.03	0.18	11	14.7	172.4	12.7	6.7	42.1	646				4.8		
28.0		5.3	4.1	7.0	1.09	0.11	10	15.2	171.3	10.1	8.6	40.1	836				tr		
-		5.7	4.1	4.0	-	-	-	10.7	169.4	17.3	21.1	56.0	404				tr		
		5.2	4.2	6.8	1.99	0.19	10	16.7	160.7	7.7	31.2	34.1	700				4.1		
		5.4	4.0	11.5	1.09	0.11	10	16.4	336.2	8.7	19.2	71.8	816				2.4		
32.5	61.9	5.9	5.0	1.3	3.48	0.28	12	17.3	339.8	17.7	43.2	70.0	592				2.8		
16.5	49.3	6.0	4.5	2.0	0.49	0.07	7	29.7	193.8	79.8	1.9	23.2	520				tr		
10.0	42.9	5.5	3.9	26.5	-	-	-	16.9	196.0	64.3	14.9	41.4	727				tr		
													745				tr		
49.0	53.6	5.3	4.0	16.8	1.22	0.14	9	21.0	287.4	34.3	13.4	48.8	738				tr		
27.5	57.5	5.9	4.5	1.0	0.93	0.13	7	19.6	395.4	10.1	15.3	71.9	727				tr		
26.5	61.1	6.0	4.3	8.8	-	-	-	18.8	350.5	20.4	14.4	66.5	755				2.0		

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ cm	理 学 性											
					礫 (風乾物中) %	風乾 細土中		細土無機物中					土 性	現地における 100 cc 溶 中		
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc
厚和南保全対策地区	厚和南	北富 11	1	0~12		1.8	13.6	14.2	45.4	59.6	21.9	18.5	CL			
			2	12~28		1.1	2.7	21.4	49.9	71.3	16.2	12.5	SL			
	北 47	1	0~20		3.0	5.2	8.6	27.5	36.1	29.9	34.0	LiC				
		2	20~40		1.3	0.7	4.5	23.5	28.0	41.5	30.5	LiC				
	松山西	温 19	1	0~20		1.1	4.7	10.2	46.6	56.8	26.1	17.1	CL			
			2	20~40		0.2	0.5	4.2	51.5	55.7	33.0	11.3	L			
昭保栄北地区	金華	北 39	1	0~20		1.2	2.7	13.5	33.3	46.7	23.0	30.2	LiC			
			2	20~38		2.6	1.5	21.7	36.2	57.9	20.2	21.9	CL			
	厚中 和央	北富 9	1	0~14		1.2	4.7	24.8	38.1	62.9	21.6	15.5	CL	111.5 103.1	43.4 40.7	16.1 28.8
			2	14~38		1.4	1.4	13.7	40.0	53.7	27.8	18.5	CL	114.0 113.0	45.1 44.6	18.9 34.4
昭保栄北地区	昭栄北	北 43	1	0~18		1.6	4.7	5.8	54.7	60.5	17.0	22.5	SCL			
			2	18~35		1.0	-	32.4	51.9	84.3	9.7	6.0	SL			
			3	35~50		1.5	-	4.5	62.1	66.6	19.9	13.5	SL			
昭全保中央地区	瑞穂南	若 22	1	0~15		2.7	3.9	1.8	18.6	20.4	37.9	41.7	LiC			
			2	15~35		2.7	1.4	0.9	15.8	16.7	42.6	40.7	LiC			
			3	35~		2.6		4.3	38.4	42.7	31.5	25.8	LiC			
昭保策北地区	佐中 呂間央	若 21	1	0~22		4.4	4.1	6.5	21.3	27.8	44.3	27.9	LiC			
			2	22~35		3.5	1.1	27.0	35.3	62.3	20.2	17.5	CL			
瑞穂保全対策地区	富岡西	北 33 (置戸)	1	0~20		3.4	3.8	27.7	32.0	59.7	24.3	16.0	CL			
			2	20~33		3.2	1.2	32.8	26.2	59.0	23.5	18.0	CL			
			3	33~60		2.0	-	29.1	30.9	60.0	22.4	17.6	CL			
	豊金	若 1	1	0~14		0.7	6.9	28.7	32.6	61.3	26.1	12.6	L			
			2	14~30		1.3	2.0	27.1	29.4	56.5	29.5	13.9	L			
			3	30~50		1.9		32.7	25.4	58.1	29.1	12.8	L			
	大富	北 7	1	0~18		1.0	3.9	36.5	27.6	64.1	23.2	12.7	L			
			2	18~35		0.7	1.5	36.8	26.0	62.8	21.3	15.9	CL			
			3	35~60		1.6	-	36.0	38.7	74.7	20.9	4.4	SL			

理學性		化 學 性																	
		P H		置換酸度 Y ₁	有機物			鹽置換容量 ME/100g	置換性鹽基 mg/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸收係數	乾土效果	30°C NH ₃ -N 發生量 mg/100g		有效態 mg/100g		遊離酸化鐵 %
		H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O				乾土	濕土	P ₂ O ₅	N	
		5.3	4.5	4.3	7.93	0.70	11	29.8	42.20	23.2	10.1	50.7	1840				3.7		
		5.7	4.5	2.5	156	0.19	8	18.8	391.2	127	74.3	74.5	606				2.4		
		5.3	4.3	4.5	3.00	0.30	10	23.8	348.5	49.0	18.7	52.1	845						
		5.3	4.7	14.8	0.40	0.06	7	19.2	290.5	69.6	0	54.2	848						
		5.7	4.8	1.3	273	0.27	11	19.6	327.8	7.5	18.2	59.7	828				7.3		
		5.7	4.2	3.8	0.28	0.04	7	15.1	265.5	66.9	39.8	62.9	580				tr		
		5.8	4.6	2.3	1.57	0.21	7	27.7	578.7	65.9	7.7	74.5	767				5.3		
		6.1	4.4	4.0	0.89	0.14	6	34.1	573.1	66.9	7.7	59.9	1090				2.5		
40.5	305	6.1	5.0	0.6	277	0.24	12	22.4	533.0	15.1	43	85.8	606				6.1		
360	210	5.5	4.1	6.0	0.80	0.09	9	17.2	298.9	8.7	5.3	62.2	606				tr		
		6.0	4.9	1.5	276	0.29	10	22.7	421.7	24	49.21	66.0	510				14.2		
		6.3	5.0	0.8	-	-	-	13.9	292.2	17.7	29.7	75.8	242				10.5		
		6.1	4.7	1.8	-	-	-	19.6	431.8	15.1	23.5	78.6	674				29.7		
		6.1	4.7	2.3	227	0.28	8	29.4	681.1	77.2	18.7	82.7	1070				13.6		
		6.5	4.7	1.5	0.81	0.12	7	25.8	573.7	92.7	7.7	79.5	1090				tr		
		6.3	4.5	2.3	-	-	-	20.4	508.6	30.8	6.7	88.7	845				tr		
		7.2	5.8	1.0	242	0.27	9	25.2	707.7	21.0	12.5	100	777				23.4		
		6.1	4.7	1.8	0.63	0.09	7	13.7	272.5	17.7	6.2	70.8	624				2.4		
		6.0	5.0	0.5	219	0.24	9	21.1	454.2	7.5	73.0	76.8	603				24.8		
		6.5	5.1	0.5	0.68	0.09	7	20.1	417.8	9.8	90.0	74.1	721				0.8		
		6.4	5.0	0.8	-	-	-	26.1	437.4	17.1	110.2	59.7	760				1.2		
		5.7	4.6	1.8	40.3	0.31	13	14.7	228.8	15.1	17.3	55.8	485				11.3		
		6.0	4.7	1.3	11.6	0.11	11	7.6	119.7	7.5	20.1	56.6	424				2.4		
		6.2	4.8	1.3	-	-	-	6.7	121.7	11.5	26.9	64.2	408				2.4		
		6.2	5.0	1.5	22.6	0.22	10	13.4	313.5	7.5	18.7	83.6	606				13.7		
		6.9	5.5	0.5	0.84	0.11	8	15.4	291.3	9.9	9.6	67.5	970				tr		
		6.7	5.3	0.5	-	-	-	13.3	265.8	7.7	13.4	71.4	877				tr		

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ cm	理 学 性												
					礫 (風乾物中) %	風 乾 細 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	現地における 100 cc 溶 中			
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	
瑞策 穂地 全対 区	瑞 穂	若 5	1	0~13		0.6	3.8	20.9	31.5	524	30.0	17.6	CL	104.0	41.2	188	
			2	13~33		0.3	1.1	20.4	26.5	469	34.6	18.5	CL	129.0	46.5	275	
			3	33~50													
昭策 栄南 保全 区	昭 栄 南	北 27	1	0~20		2.6	6.9	29.8	23.5		28.6	18.1	CL				
			2	20~33		2.0	2.3	19.7	28.5		30.2	21.6	CL				
			3	33~55		3.2	-	34.6	29.3		27.3	8.8	L				
大和 北保 全対 策地 区	留薬 辺北	北 77	1	0~15		1.4	4.6	27.0	28.1	55.1	30.4	14.5	L				
			2	15~30		1.4	1.4	42.1	17.2	59.3	25.1	15.6	CL				
	金華 西	北 31	1	0~17		1.6	7.1	20.7	28.1	48.8	28.7	22.5	CL				
			2	17~30		0.8	4.3	7.1	48.5	55.6	23.9	20.5	CL				
	大和 北	温 1	1	0~17		1.0	5.4	16.8	37.0	53.8	29.5	16.7	CL				
			2	17~40		1.2	1.4	18.7	30.5	49.2	35.7	15.1	CL				
	瑞穂 東	若 28	1	0~14		1.2	4.2	19.5	37.2	56.7	26.0	17.3	CL				
			2	14~35		0.3	0.9	19.3	40.8	60.1	24.9	15.0	CL				
	大富 南	北 18 (置戸)	1	0~20		5.1	5.1	15.1	43.5	58.6	25.9	15.5	CL				
			2	20~40		1.4	2.1	19.3	47.3	66.6	21.2	12.2	SL				
	厚保策 和全地 北対区	厚和 北	北富 13	1	0~15		1.1	2.4	3.0	68.9	71.9	15.0	13.1	SL			
				2	15~30		1.3	2.9	28.6	52.7	81.3	10.2	8.5	SL			
昭保策 栄全地 北対区	端野 東	北 57 (北見)	1	0~20		2.3	1.6	48.7	38.1	86.8	7.4	5.8	LS				
			2	20~50		0.4	-	60.6	34.0	94.6	4.4	1.0	S				
厚保策 和全地 北対区	シプ ヨマ ツ沢	北富 14	1	0~27		1.9	5.6	25.8	38.6	64.4	19.6	16.0	SCL				

理学性		化 学 性																	
		PH		置換酸度 %	有 機 物			塩置換容量 me/100g	置換性塩基 mg/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	乾土効果	30°C NH ₃ -N 発生量 mg/100g		有効態 mg/100g		遊離酸化鉄 %
		H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O				乾土	湿土	P ₂ O ₅	N	
400	588	5.8	4.7	1.3	2.19	0.22	10	18.5	400.1	20.2	82	77.3	545				8.0		
260	53.5	6.1	4.5	15	0.63	0.09	7	13.5	319.7	31.4	6.7	84.4	580				tr		
		5.6	4.0	10.5	-	-	-	21.2	462.1	17.1	127	77.8	-				tr		
		6.1	5.2	1.3	4.02	0.36	11	27.9	644.6	15.3	17.7	82.4	885				11.9		
		6.1	4.8	1.0	1.31	0.18	7	23.1	459.9	20.0	7.1	70.9	1000				tr		
		6.0	4.7	2.0	-	-		22.6	396.2	25.8	129	62.8	1195				tr		
		5.8	4.6	2.0	2.67	0.24	11	23.9	451.1	28.0	10.6	67.3	828				4.9		
		6.2	4.3	1.0	0.80	0.11	7	24.0	469.1	51.2	5.3	69.7	889				tr		
		6.0	4.9	1.3	4.12	0.38	11	24.8	478.4	25.4	9.6	69.0	836				6.1		
		6.0	4.8	29.6	2.47	0.32	8	29.6	470.8	8.0	125	56.8	1170				tr		
		6.1	5.1	1.0	3.12	0.32	10	23.1	323.9	4.8	48.9	50.2	626				14.5		
		6.0	4.6	0.6	0.83	0.11	9	15.8	359.8	17.7	37.9	81.0	626				tr		
		5.9	4.7	1.3	2.45	0.23	11	21.4	501.1	5.06	20.6	83.6	687				23.9		
		5.8	4.3	3.8	0.61	0.08	8	18.1	220.1	168.3	10.6	43.4	720				tr		
		6.2	5.2	0.5	2.94	0.32	9	21.2	462.6	17.1	127	77.8	714				11.6		
		5.8	4.9	0.5	1.21	0.15	8	17.9	241.1	7.5	122	40.8	1210				tr		
		5.8	4.7	0.6	1.37	0.16	9	18.0	398.2	17.7	42.7	78.9	848				11.3		
		6.2	4.9	1.0	1.66	0.17	10	23.9	508.6	15.1	22.1	75.9	525				17.0		
		6.0	5.5	0.3	0.90	0.10	9	19.6	344.9	5.5	37.9	62.7	560				65.9		
		6.4	5.5	0.3	-	-	-	16.6	228.5	4.29	1.0	49.4	924				12.9		
		5.9	4.9	1.0	3.19	0.32	10	24.1	511.7	7.7	68.1	75.9	755				35.5		